

令和2年度
自己点検評価報告書

一関工業高等専門学校

点検評価委員会

令和2年度自己点検評価報告書

教務委員会：

報告者（役職・氏名） 委員長・松尾 幸二

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
教務主事・委員長	松尾 幸二	別添 01-1-1, 別添 01-1-2
教務主事補	小池 敦	〃
教務主事補	木村 寛恵	〃
〃	佐藤 一樹	〃
委員	秋田 敏宏	〃
専攻科長	中山 淳	〃
生産工学専攻長	村上 明	〃
物質化学工学専攻長	岡本 健	〃
学生課	中山美喜也	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 未来創造工学科における第4学年の分野展開・系発展科目の実施
- (2) 全学生の出席状況の把握のために、確認電子出席簿の導入の検討
- (3) 高専機構のDP（ディプロマ・ポリシー）を包含する本校のDPの検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 未来創造工学科における第4学年の分野展開・系発展科目の実施
→令和元年度において、今年度第4学年において開設される分野展開・系発展科目の履修の方法、主分野の希望調査、授業時間割編成の方針の作成、教員選択分野調査等を実施し、第4学年から一つ選択することになる主分野の決定方法を決めたが、各分野の最大配属人数等に不明確な点があったことから、来年度に向け改善を実施した。
- (2) 全学生の出席状況の把握のために、確認電子出席簿の導入の検討
→令和2年度当初から1校時目不在学生の把握を始めることとし、実施方法としては、FormsとExcel Onlineを活用した不在学生管理システムを利用することとしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大、緊急事態宣言等もあり、令和2年度の前期は遠隔授業となった。後期からは対面授業となったが、従来の出席簿と不在学生管理システムの両方を活用して、学生の出席状況を把握した。しかし、長期休業明け等には学生のメンタルの問題が起きやすい時期であるため、メンタルに問題を抱えた学生の1時間目の登校確認は、巡回することで実施した。来年度からは総合情報センター長が構築した新しいシステムにより、健康チェックおよび登

校確認が Teams を活用してできる予定である。

(3) 高専機構の DP（ディプロマ・ポリシー）を包含する本校の DP の検討

→本校の DP は、「(本校の) 教育目標の各項目ができる」となっており、抽象的で具体性に欠けた DP になっている。また、教育目標の達成であるため改善することが困難である。高専機構では各高専の教務主事を対象とした「高専教育の質保証勉強会」において、各高専の DP の改善を実施するよう要請している。その際、高専機構の DP を包含する DP にすることも要請している。DP の改善を検討することは教務委員会での検討事項ではないかも知れないが、教務委員会の年度計画に入れてしまった。教務委員会ではこのことについて検討していない。教務主事からは未来創造工学科運営会議のメンバーに改善案として、現在の DP を維持しつつ、具体性をもたせるために、＜教育目標を達成するための具体的な目標＞(A-1) (A-2) … (F-1) (F-2) を DP に付け加えることを提案したが、メンバーの 1 名から実際にどのような DP に変わるのか分からないので、コメントできないとの回答があった。その後、DP についての検討はできていない。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

【進言1】

共通科目・横断科目について、第4学年以上の新規科目の準備検討を進言する。

【対応1】

すでに改組開始の時点で新教育課程は定まっており、第4学年以上における共通科目・横断科目も決定している。教員側の分野選択調査も済み、各分野代表者も決定した。共通科目・横断科目の準備検討については教務委員会の検討事項ではなく、各分野において行うべきものではないか。

【進言2】

AL(アクティブ・ラーニング)を取り入れた授業公開等について、研究授業と意見交換会を実施したことは、評価できるが、今後の教育改善に繋がる具体的な検討を進言する。

【対応2】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、(AL を取り入れた)授業公開は参加者が多ければ「密」な状態になりかねないため実施しなかった。

昨年度は公開授業への参加者は少なく、公開授業の件数も少ない状況であった。現段階では教育改善に繋げられる状況にはないと考えられる。今後も AL を取り入れた授業公開を推奨し、AL を実践する教員、科目を増やすことがまずは必要である。これらの増加によって、学内での AL に関する実践報告などによる FD 研修等を実施していくこともできるのではないかと考える。

【進言3】

発達障害者の進路指導に関し、チーム支援など対応方法の可視化を進言する。

【対応3】

発達障害を抱える学生が増えてきている現状は確かであり、また重い障害をもつ学生も存在することも事実である。彼らが5年生となり卒業後の進路を決定する際、学校からの支援が必要であることは間違いないことであろう。

本校には3主事および保健管理センター長、副センター長を室員とする修学支援推進室があり、発達障害等を抱える学生の修学を支援するために、保健管理センター長、副センター長、学級担任(または専攻長、副専攻長)、系長(または領域長、専攻科長)、看護師他をメンバーとする修学支援チームに支援を要請していくこととしている。この支援の中に進路指導が含まれているのかどうかは問題である。

進路指導の場合は就職にせよ、進学にせよ、学生の特徴を先方に理解していただかなければならないため、担任(または卒研担当)や系長など学生に近い存在の教員への負担がかなり大きくなることが考えられる。チームを編成したとしても負担が個人に集中しないような方法を考える必要があろうかと思われる。

これは教務委員会ですということではなく、学校全体で考えていく問題であると考え。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

・昨年度の卒業判定会議において、前年度の未修得必修単位を再評価試験等で修得しておらず、原級留置になった学生が、規定により判定会議後に再評価することで卒業を認められたことがあった。これは規定の不備が原因であるため、この不備を改善するため、教務便覧の一部を改正した。

・緊急連絡(安否確認)訓練の実施について、訓練メッセージをこれまでと同様、G-mail, Twitterで発信し、学生からの返信にFormsを利用した。結果として、返信率は昨年度の77%から90%に上昇した。

2.5 来年度の年度計画

- ・未来創造工学科における第5学年の分野展開・系発展科目の実施
- ・ピアサポーター育成の実施
- ・実験スキル計測の試行
- ・CBTを活用した教育改善の実施
- ・ポートフォリオ教育の検討

令和2年度 教務主事補担当委員会一覧

	委員	R02	備考
委員会	広報室	佐藤一	
	評価対応部会	佐藤一	
	保健管理センター運営委員会	小池	
	国際交流委員会	木村	
	サイバーセキュリティ人材育成事業推進委員会	小池	
	教務委員会 国際コミュニケーション能力育成部会	木村	部会長
外部	いわて高等教育コンソーシアム(単位互換)	木村	
	「高専学生情報統合システム」担当	小池	

令和2年度 教務委員会業務担当一覧

	業務	R02	実施時期
1	授業変更(オリエンテーション・地域企業見学会・合宿研修・工場見学旅行)	佐藤一	4・10・11月
2	学年集会の実施(2年・3年)	小池	4月
3	再評価・再履修対象学生の指導	小池	4月
4	特別区域清掃の計画立案・実施状況確認	佐藤一	4月(掌握)
5	インターンシップの統括(実習依頼, 事前指導)	小池, 木村	4月～
6	中間試験・期末試験の時間割作成	木村	4月～
7	FD研修会(運営委員会で企画)	主事	4月
8	TA制度の企画・実施	木村	4月
9	TOEIC-IP試験の実施(英語科と連携)	木村	準備4・9・1月
10	非常勤講師の再評価試験の実施	佐藤一	5月上旬
11	消防・避難訓練の実実施計画	主事, 佐藤一	5月
12	情報機器による緊急連絡方法の学生周知・安否確認訓練	小池	5月
13	系配属志望調査・系配属作業	佐藤一	通年
14	放送大学の履修案内	木村	5月・11月
15	教務システムの改善(教務係長と連携)	小池	5月
16	合宿研修・工場見学旅行の統括	佐藤一	5月
17	授業改善(授業公開等の企画)	木村	5月
18	出席不良者および成績不振学生の掌握と指導	木村	6・10・12月
19	CBTの設定・実施	小池	8月
20	編入学・推薦選抜・学力選抜試験(実施要項・説明会・統括副責任者)	主事, 小池	8月・1月・2月
21	知財教育講演会の企画・実施	木村	9月
22	4年次編入学関係(普通高校出身者の対応, 事前指導の掌握)	佐藤一	9月
23	非常勤講師との意見交換会	木村	9月・2月
24	専門教科と一般教科の意見交換	木村	10月
25	行事予定表・ガイダンス計画の作成	木村	10月
26	授業アンケート(点検評価委員会が担当するが, 自由記述を担当)	主事	10月・2月
27	大学説明会の統括(豊橋技科大, 長岡技科大, 他)	小池	11～12月
28	シラバス・科目系統図の統括	小池	12月
29	シラバス・科目系統図の作成・点検	全員	12月
30	教務関係規則の見直し・管理	佐藤一	12月
31	授業時間割編成	小池→佐藤一	1月・7月
32	教務便覧の改定	佐藤一	1月
33	学級担任の手引きの改定	佐藤一	1月
34	学生便覧の改定	佐藤一	1月
35	新入生オリエンテーションの企画・実施	小池, 木村, 佐藤一	1月→4月
36	入試結果の分析・分析結果の蓄積・選抜方法の改定	主事	1～3月
37	盛岡検査場の統括責任者・統括副責任者	小池, 佐藤一	2月
38	1年生入学者アンケート調査・データ蓄積	小池	2月→4月
39	進級・卒業判定資料のチェック・会議での説明	佐藤一, 主事	3月
40	学年末の学業表彰リストアップ・学生表彰のチェック	佐藤一, 主事	3月
41	旧1年担任と新2年担任の情報交換会	木村	3月
42	担任の業務を支援する電子ファイル(名票, 座席表, 掲示物)の管理	木村	3月
43	第1学年クラス編成作業(原級留置学生の配置に関する内容含む)	主事・木村	3月
44	当該年度の事業報告・改善内容整理	全員	3月
45	主事不在時の代行	小池	
46	モデルコアカリキュラム対応・カリキュラム改定の検討	小池, 佐藤一	
47	3ボリの改善の検討	佐藤一	
48	アクティブラーニングの推進	木村, 小池	
49	単位未修得者の掌握	木村	掌握
50	教室の清掃指導・教室の破損状況把握	木村	掌握
51	情報リテラシー・基礎製図・ものづくり実験実習の統括	小池	
52	系導入セミナーにおける教務関係指導・系配属	小池	
53	企業との連携教育関連科目の統括(実施状況の把握, 計画)	小池	
54	外部評価(運営諮問会議, 機関別認証評価)への対応	木村, 主事	
55	教務主事補引き継ぎ記録の作成	全員	
56	卒業式の予行指導(教務委員会+学生委員会)	佐藤一	

令和2年度自己点検評価報告書

専攻科：

報告者（役職・氏名） 専攻科長・中山 淳

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務※2
委員	中山 淳 (専攻科長)	
〃	村上 剛 (生産工学専攻長)	教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会 点検評価委員会評価対応部会 特別研究発表会実施および特別研究論文集製本等に係る業務
〃	岡本 健 (物質化学工学専攻長)	教務委員会国際コミュニケーション能力育成部会 点検評価委員会評価対応部会 進路指導室
- ※1	谷林 慧 (生産工学副専攻長)	
- ※1	小林 健一 (生産工学副専攻長)	
委員	中山 美喜也 (学生課長)	

※1：生産工学副専攻長は教務委員会構成員ではない

※2：専攻長・副専攻長としての担当業務のみ

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1)教育課程に係る検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1)教育課程に係る検討

令和4年度に予定している専攻科改組へ備え、非常勤講師の担当科目を中心に開講学年の見直し等を継続的に行い、学則改正（教育課程の一部改正）を行った。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

(1)進言：専攻科生に関する学力保証の確認方法について、教務委員会で議論が行われることを要望する。

対応：今年度は議論を行うことができなかった。次年度以降、検討する。

(2)進言：特例適用専攻科学修総まとめ科目担当教員の審査について、専攻科長と校長補佐（研究担当）が連携して研究業績の蓄積の必要性を定期的に意識付けさせる取り組みの実施を進言する。

対応：研究業績の蓄積の必要性について、校長補佐（研究担当）から教員会議等の席上で度々発言がなされたものの、校長補佐（研究担当）と専攻科長が連携した取り組みは実施できな

った。次年度以降，取り組みの実施を検討する。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

(1) 改組後の専攻科設置へ向けた準備

令和2年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：学生委員会

報告者（役職・氏名） 学生主事・二階堂満

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
学生主事	二階堂満	学生指導全般 企画調整 いじめ防止委員会 対外的行事全般（学外委員、外部対応）奨学金・経済支援 市学警連・生徒指導連絡協議会 部活動顧問調整 東北地区高専体育大会（分散開催） 顧問削減案作成 高専機構対応・東北地区学生主事関係 文化的行事 後援会費調整 高専祭（指導補佐） 預り金関係（指導補佐）
学生主事補	井上 翔	高専祭指導 評価対応部会 学生安否確認訓練 保健管理センター運営委員会 保健室連携 IT 関係・保健指導 いじめ防止委員会 救急救命講習会 東北地区高専体育大会（教職員学生割振案） インターネット関連学生指導（第一次対応・窓口）
学生主事補	千田 芳樹	部活動指導（高体連・合宿指導他） いじめ防止委員会 技術系コンテスト支援部会 預り金関係（説明会設定等） 交通安全指導・放置自転車撤去計画 校外関係学生指導（苦情、自転車）（第一次対応・窓口）
学生主事補	小野 孝文	学生会指導 学生表彰関係 全校屋外清掃 校内体育大会 いじめ防止委員会 生活指導計画 広報委員会 校内関係学生指導（教員通報、自転車）（第 一次対応・窓口）
学生委員	滝渡 幸治	一関市少年センターの巡回（前期）
学生委員	宇梶 郁	学生指導全般
学生課長	中山美喜也	学生委員会関係事務
学生支援係長	及川 尚	学生委員会議事録

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

(1) 学生会行事

部活動紹介・見学、立会演説会、学生総会、壮行会、大会報告会、学生会リーダー研修会、「朔風」編集発行

(2) 課外活動関係

合宿の調整・指導、課外活動記録、課外活動の安全と指導の手引き改訂、顧問調整、各種大会参加

- (3) 技術系支援部会関係
公募準備・選考、部会招集、ロボット作成指導補助
- (4) 学生安否確認訓練
- (5) 実行委員会指導
校内体育大会実行委員会、高専祭実行委員会
- (6) 健康・IT・文化的行事関係
飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導、性教育に関する啓蒙指導、IT 利用に関する被害防止とマナーの遵守指導、救急救命講習会
- (7) 生活指導全般
挨拶運動・登校指導、校内外巡回指導、交通安全に関する指導、女子学生への生活指導、学生指導の手引
- (8) 問題行動発生時の対応
事情聴取・処分内容の検討など全員で対応
- (9) 外部機関との連携
一関市少年センターの市内巡回への協力、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会、岩手県高等学校体育連盟県南支部関係、高文連一関支部、萩荘地区青少年健全育成協議会

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

今年度は、コロナ禍の状況のため前期中は遠隔授業となり、学生委員会や学生会関連の行事も大きく変更せざるを得なかった。課外活動に関しても前期中は原則禁止となり、後期から制限を設けながら再開した。

(1) 学生会行事

部活動紹介：8月中に実施した。各部活動のPR資料を moodle および MS Stream に掲載した。

その後、1年生から MS Forms にて入部届を提出してもらう。

学生総会：10月20日（校内放送と MS Teams 利用）と、1月下旬（MS Teams 利用）に実施した。

学生会役員会選挙：11月30日に実施した（MS Teams 利用）。

学生会リーダー研修会：12月15日に実施した。

「朔風」編集発行：12月～3月にかけて実施した。

○達成度：80%

○自己評価内容：コロナ禍を勘案し、開催できなかった行事もあった。

(2) 課外活動関係

合宿の調整・指導：中止

課外活動日誌：MS Forms を利用して行った。

課外活動の安全と指導の手引き改訂：3月に実施した。

顧問調整：3月に実施した。

各種大会参加：前期中の各種大会の多くは中止となった。後期から高体連新人戦などの大会には参加できた。

○達成度：100%

○自己評価内容：課外活動に関しては、コロナ禍の状況下で前期中は中止となり、後期から制約を設けながら再開したが、可能な範囲での支援を行った。

(3) 技術系支援部会関係

公募準備・選考：6、7月に実施した。

応募チーム数：ロボコン3、

プロコン2（課題部門1、自由部門1）

ロボット作成指導補助：5月～10月にかけて実施した。

(結果)

高専ロボコン東北大会（10月18日）

3チーム出場し、②チームが特別賞を受賞

高専プログラミングコンテスト（10月10日～11日）

課題部門出場の1チームが特別賞（全国3位相当）を受賞

○達成度：100%

○自己評価内容：コロナ禍の状況下でも、ルールを変更し実施することができた。

4) 学生安否確認訓練

学生安否確認訓練：7月に実施した。

○達成度：100%

○自己評価内容：コロナ禍の状況下でも問題なく実施することができた。

(5) 実行委員会指導

校内体育大会実行委員会：今年度は中止することにした。

高専祭実行委員会：今年度は中止することにした。

・秋の学生会行事（高専祭代替行事）も検討したが、今年度は中止することにした。

7月から臨時の実行委員会組織（メンバー：高専祭実行委員、体育大会実行委員、部活動部長会、学生会役員）を結成し、数回のTV会議を実施、また、学生からのアンケート

調査も2回実施した。学校側との協議もあり、今年度は、コロナ禍の状況下であり、従来の全校学生の集合形式の行事（体育大会や高専祭）は難しく、オンラインでの開催が可能性としてあった。しかし、学生へのアンケート結果より、オンラインでの開催に否定的な意見が多く、中止という判断に至った。

○達成度：80%

○自己評価内容：両行事とも今年度は、コロナ禍の状況を勘案し、中止という判断に至った。

しかし、臨時の実行委員会を複数回にわたり開催し、また、全学生向けのアンケートも実施し、学生の様々な意見を取り入れながら議論できたことは良かった。

(6) 健康・IT・文化的行事関係

(飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導)

・健康教室：11月18日実施 対象者：第1学年全員

仲間づくりのワークを実施する。

- ・薬物乱用防止講演会：10月28日実施 対象者：第2学年全員

Teams 動画配信

(性教育に関する啓蒙指導)

- ・「いのちと性」に関する講演会：1月13日実施予定していたが、中止した。

対象者：第1学年全員

(インターネット・ソーシャルメディア利用に関する被害防止とマナーの遵守指導)

- ・サイバー犯罪被害防止教室：8月5日実施 対象者：第2学年全員
- ・インターネット被害防止教室：7月29日実施 対象者：第3学年全員
- ・スマホ・ケータイ安全教室：7月22日実施 対象者：第1学年全員

(救急救命講習会)

- ・救急救命講習会の計画立案および実施：中止とした。

○達成度：80%

○自己評価内容：コロナ禍の状況を勘案し、中止となった講習会もあったが、インターネット・ソーシャルメディア利用に関する講演会は、遠隔（MS Teams 利用）で実施した。

(7) 生活指導全般

挨拶運動・登校指導：対面授業が開始した、後期から実施した。毎月の第1週に専攻科棟脇通用口と正門で挨拶の声かけ

校内外巡回指導：後期から実施した。毎週2~3回、昼休み時間と放課後に校内外の巡回指導
交通安全に関する指導

- ・交通安全教室：今年度は中止した。
- ・ステッカー貼付指導・駐輪マナーの徹底：適宜、指導を行った。

構内自動車無許可乗入れ車への指導：適宜、指導を行った。

○達成度：90%

○自己評価内容：コロナ禍を勘案し、開催できなかった行事もあったが、可能な範囲で実施した。

(8) 問題行動発生時の対応

事情聴取・処分内容の検討など全員で対応：随時、委員全員で対応した。

○達成度：100%

○自己評価内容：学生の問題行動は例年に比べて少なかった。案件の発生時は迅速に対応した。

(9) 外部機関との連携

- ・一関市少年センターの市内巡回への協力：通年で学生委員が参加・協力した。
- ・一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会：通年で学生主事が参加した。
- ・岩手県高等学校体育連盟県南支部関係：課外活動担当の学生主事補が参加した。
- ・高文連一関支部
平林教員が担当した。
- ・萩荘地区青少年健全育成協議会：通年で学生主事が参加した。

○達成度：80%

○自己評価内容：だいたい実施できたが、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会の出席で数回欠席するがあった。すべて出席できなかつたので達成度を80%とした。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

(1) 進言：学生会と定期的に意見交換する機会を設け、学生の自主的活動を支援する取り組みの強化を進言する。

⇒対応：学生会との意見交換については、学生主事、主事補が定期的実施した。

(2) 進言：部活動の顧問の業務改善や顧問数の削減について。教員の引率に対する移動時間・距離・回数・(合宿を含む) 宿泊日数などの数値を示して。顧問負担軽減と公平性を目指した検討を進言する。

⇒対応：学生会と連携しながら、部活動数の削減などを検討した。顧問の負担軽減については、教員側の要望だけでなく、学生の意見も取り入れながら継続的に検討していく。

(3) 進言：2018年度の高専祭にて発火のトラブル、2019年度には衛生面の問題が発生した。その改善内容について、次回の高専祭実施時に教員会議等での教員への周知を進言する。

⇒対応：実行委員会と十分に対策について議論し、教員会議にて周知するようにする。

(4) 進言：学生関係の事務手続きの電子化促進を進言する。

⇒対応：学生支援係と連携し、前向きに取り組んでいる。今年度は、コロナ禍に対応した「課外活動日誌」は学生が Forms 入力に変更した。次年度には、毎月の「課外活動計画書」「課外活動報告書」等について電子化する予定である。

(5) 進言：次年度は学生委員会業務全体の効率化や削減も自己点検報告書記述することを進言する。

⇒対応：ある程度の内容を記述しました。

(6) 進言：「健康増進法の一部を改正する法律」の施行に基づき、本校でも2020年4月1日から「校内指定喫煙所」を廃止しているが、学生に対して、禁煙教育に加えて、喫煙に伴う健康被害や受動喫煙の被害に関する啓発の継続を要望する。

⇒対応：学生会と協力しながら、対策について検討する。

(7) 進言：ソーシャルメディアへの投稿によるトラブルが増加傾向にあるので、インターネット使用に関するモラル教育の強化を進言する。

⇒対応：様々な文書や集会において、再三にわたり注意喚起と啓発を行った。また、3年生以下においては、学年別に、ソーシャルメディア関連の講習会を継続的に実施している。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

(1) 学生支援体制の再整備計画書を高専機構に提出し、課外活動支援員用の予算を獲得した。

(2) 部活動顧問数削減について学生委員会で継続的に話し合った。部活動数を削減を早期にできるようにするため、学生会との連携で学生会規則の改正を行った。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 学生会行事
部活動紹介・見学、立会演説会、学生総会、壮行会、大会報告会、学生会リーダー研修会、「朔風」編集発行
- (2) 課外活動関係
合宿の調整・指導、課外活動記録、課外活動の安全と指導の手引き改訂、顧問調整、各種大会参加
- (3) 技術系支援部会関係
公募準備・選考、部会招集、ロボット作成指導補助
- (4) 学生安否確認訓練
- (5) 実行委員会指導
校内体育大会実行委員会、高専祭実行委員会
- (6) 健康・IT・文化的行事関係
飲酒・喫煙・薬物乱用の防止と指導、性教育に関する啓蒙指導、インターネット・ソーシャルメディア利用に関する被害防止とマナーの遵守指導、救急救命講習会
- (7) 生活指導全般
挨拶運動・登校指導、校内外巡回指導、交通安全に関する指導、女子学生への生活指導、学生指導の手引
- (8) 問題行動発生時の対応
事情聴取・処分内容の検討など全員で対応
- (9) 部活動顧問負担軽減案の検討
- (10) 外部機関との連携
一関市少年センターの市内巡回への協力、一関市学校警察連絡協議会・生徒指導連絡協議会、岩手県高等学校体育連盟県南支部関係、高文連一関支部、萩荘地区青少年健全育成協議会

令和2年度自己点検評価報告書

技術系コンテスト支援部会：

報告者（役職・氏名） 部会長（学生主事補）・千田 芳樹

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
人文社会領域・准教授 学生主事補 (規則 第3条一号委員)	千田 芳樹	部会長 企画調整・学生指導補助
機械・知能系・准教授 (規則 第3条二号委員)	八戸 俊貴	学生指導補助
電気・電子系・講師 (規則 第3条二号委員)	川上 雅士	学生指導補助
情報・ソフトウェア系・教授 (規則 第3条二号委員)	宇梶 郁	学生指導補助
化学・バイオ系・准教授 (規則 第3条二号委員)	滝渡 幸治	学生指導補助
自然科学領域・助教 (規則 第3条二号委員)	植田 優基	学生指導補助
学生課学生支援係 係長 (規則 第9条)	及川 尚	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) プロコン出場チームの募集及び選考
- (2) ロボコン出場チームの募集及び選考
- (3) プロコン連携シンポジウムの案内および校内での開催補助
- (4) コンテスト学校代表チームの支援依頼に応じて、学生指導補助
- (5) 各種コンテストの案内

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) プロコンについては、コロナ禍の状況により例年の一月以上スケジュールは後ろにずれ込んだものの、それ以外はトラブル等無く部会・選考会の開催できた。
○達成度：100%
○自己評価内容：問題なく実施することができた。
- (2) ロボコンについても、コロナ禍の状況により例年の約二月スケジュールは後ろにずれ込んだものの、それ以外はトラブル等無く部会・選考会の開催できた。
○達成度：100%

○自己評価内容：問題なく実施することができた。

- (3) プロコン連携シンポジウムは4/21にオンラインで開催され、前日4/20に全学生向けの案内を行った。今年度はコロナの関係で自宅からオンラインで参加する形式となった。

○達成度：100%

○自己評価内容：問題なく実施することができた。

- (4) コロナ禍のためコンテストはオンライン開催となり、今年度の学生指導支援依頼は無かった。

- (5) 高専連合会主催でないコンテストであってかつ出場チーム数が決められているコンテストの扱いは、掲示板等で周知する方針としているが、このようなコンテストの場合、通知から応募締切までの期間が極端に短い場合があり、事実上、学内選考会の開催は困難である。従って、稀なケースではあると思うが、こういった小規模コンテストにおいて選考が必要になった場合は、選考会を行わず、応募希望者間での調整を引き続き依頼したい。

○達成度：100%

○自己評価内容：問題なく実施することができた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

・進言：学生指導支援要請が減少している原因を把握し、それを踏まえて今後の部会の在り方について検討することを進言する。

⇒対応：

技術系コンテスト支援部会のあり方について昨年度に引き続き検討した。近年、学生指導支援要請回数が減少していることから（今年度はコロナ禍の状況下で合宿も中止となり要請0回、昨年度要請1回）、学生指導補助に関しては廃止しても問題がないのではという意見もあるが、回数が少ないながらも学生指導補助が必要な状況はあるという事で学生指導補助の撤廃には慎重にならざるを得ない。引き続き検討をしていく。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

今年度はコロナ禍にもとで、プロコンおよびロボコンの大会開催自体が危ぶまれる状況にあった。結果的に両大会ともにオンラインでの開催が決まったが、大会開催の決定・要項の送付まで例年に比べ1～2ヵ月ほど待たねばならなかった。開催決定を受けて、直ぐに部会・選考会に向けてスケジュール調整が計られた。コロナ対策のため部会・選考会ともにオンラインでの初めての開催となったが、つつがなく終えることができた。

2.5 来年度の年度計画

- (1) プロコン出場チームの募集及び選考
- (2) ロボコン出場チームの募集及び選考
- (3) プロコン連携シンポジウムの案内および校内での開催補助
- (4) コンテスト学校代表チームの支援依頼に応じて、学生指導補助
- (5) 各種コンテストの案内

令和2年度自己点検評価報告書

寮務委員会：

報告者（役職・氏名） 寮務主事・二本柳譲治

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
寮務主事・委員長	二本柳譲治	委員長
寮務主事補	谷川 享行	各種行事の指導割り当て、指導寮生担当、留学生・チューター・サポーター指導、「ACCESS plus」編集指導、部屋割指導、表作成（主）、寮生派遣の交渉・引率（副）、国際交流委員会、Moodleの管理・運用、朝点呼方式の改善に関する検討
〃	渡邊 崇	主事・主事補・委員の宿直・巡回割り当て、在室調査・朝点呼立会割り当て、入寮選考資料作成、「寮生活の手引き」編集（主）、夏季特別在寮時の風呂掃除など割り当て（副）、広報室、寮ホームページの管理・運営
〃	小林 健一	寮生派遣の交渉・引率（主）、夏季特別在寮時の風呂掃除など割り当て（主）、部屋割指導、表作成（副）、「寮生活の手引」編集（副）、中央委員会、評議会指導、保健管理センター運営委員会、寮内ネットワークの構築
寮務委員	三浦 弘樹	系・学科連絡担当、寮行事への参加、昼巡回（試験期間・体育大会・高専祭等）
〃	佐藤 和輝	〃
学生課長	中山美喜也	寮運営費収支報告書、寮生保護者会費収支報告書作成および次年度予算案作成等
寮務係長	佐賀 政英	書記

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防対策の策定および実行
- (2) 寮業務の電子化の推進（継続）

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防対策の策定および実行

寮内での感染症予防対策を策定し、実行に移すことができた。国および高専機構本部のガイドラインに沿って、「寮生活における『新しい生活様式』ハンドブック」を作成し、点呼の方式の変更、食堂の利用の仕方、入浴、そして毎日の清掃・消毒の実施等、寮生活のあらゆる場面での取り得る対策を導入した。対策を実行していく中で寮生の積極的な提案もあり、個別の対策を継続的に見直すことによって、より効率的で実効性のある方式へと改善を続けている。

- (2) 寮業務の電子化の推進（継続）

業務の効率化の観点から検討してきたが、感染症予防の必要から寮業務の電子化が大きく進んだ。点呼の電子化を始めとして、門限に遅れる場合の連絡手段としての Microsoft Teams の活用、各種連絡およびアンケートの実施に際して電子的手段を用いること等、多くの場面で従来の方式を置き換えていった。今後は寮改修に伴い施設設備が更新されることから、さらに電子化を進めることによってより精度の高い寮生の安全管理・所在確認と業務の効率化を展望している。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- (1) 【進言】

電子化に限らず、寮行事の見直しなどを含めた業務軽減・効率化について引き続き検討を行うことを提言する。

【対応】

感染予防の必要から今年度は寮行事の実施の可否および実施形態の見直しを全面的に行った。今後新型コロナウイルス感染症が沈静化した後も寮行事を機械的に復活させるのではなく、業務軽減・効率化の観点から全体的に見直す予定である。

- (2) 【進言】

問題を起こす寮生には多様な背景があるが、それぞれの状況でどのような指導が効果的か常に留意して対応することを要望する。

【対応】

多様な背景を正確に把握すること、必要な情報を必要な範囲で共有すること、学内の各部署と連携した上で指導に当たること、学外の専門機関の協力を得ること、保護者との信頼関係を構築すること、以上のことを念頭に寮生の安心安全を第一義的に考える必要がある。現在は寮単独での学生指導は多くの場合に効果が限定的になることから、常に協力体制を維持しつつ指導に当たることとしている。

(3) 【進言】

寮内無線 LAN 環境の整備について、引き続き検討を要望する。。

【対応】

寮内のネットワーク環境整備について、今年度は第一段階として図書室・自習室等の共用スペースに必要最小限の Wi-Fi ルーターを配置した。今後は寮の改修工事に合わせて本格的な環境整備を進めていく計画である。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防対策の策定および実行（継続）
- (2) 寮改修計画の策定および実行
- (3) 寮業務の電子化の推進（継続）

令和2年度自己点検評価報告書

施設設備委員会：

報告者（役職・氏名） 委員長・明石 尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏 名	担当業務
委員長	明石 尚之 副校長（総務担当）	
委員	松尾 幸二 副校長（教務担当）	
〃	二階堂 満 副校長（学生担当）	
〃	二本柳譲治 副校長（寮務担当）	
〃	鈴木 明宏 地域共同テクノセンター長	
〃	中山 淳 副校長（専攻科担当）	
〃	小保方幸次 メディアセンター長	
	小保方幸次 総合情報センター長	
〃	平林 一隆 保健管理センター長	
〃	安倍健太郎 総合科学（自然科学領域）	体育施設
〃	松本 仁一 事務部長	
総務課	佐藤 亮二 総務課長補佐（財務担当） 前田 稔継 施設係長	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 各種改修工事に係る検討
- (2) 概算要求（案）、営繕事業（案）の作成と審議
- (3) キャンパスマスタープラン（案）の改定
- (4) 学科改組後の居室・設備の再配置の検討
- (5) 設備整備マスタープラン（案）の作成と審議
- (6) 施設利用状況調査の実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 各種改修工事に係る検討

メディアセンター改修工事は7月末に完了した。予算の都合で本体工事から外した機器取り付け工事が残ったが、年度内には全て完了した。また、メディアセンター屋上改修工事は7月末に完了した。

令和元年度の概算要求であった、基幹・環境整備（排水設備）は1月29日に工事が完了した。また、給水・ガス設備改修工事は3月末日に完了した。

(2) 概算要求（案）、営繕事業（案）の作成と審議

概算要求については、現在はライフライン整備が中心であり、高専機構本部の指導に従って申請内容及び順位を決定している。1月14日に高専機構本部との意見交換会があり、「寮食堂・寮浴室」「南寮」「5号棟（北）」を令和4年度概算要求とする対象事業を選定した旨、2月15日に通知があった。なお、令和2年度の補正でライフライン再生（電気設備）が採択され、令和3年度に実施されることとなった。

営繕事業は、昨年度より各校1件のみの申請となった。本校は「保健室移転改修」を申請したが、採択には至らなかった。

(3) キャンパスマスタープラン（案）の改定

今年度は、改定作業を実施することができなかった。

(4) 学科改組後の居室・設備の再配置の検討

令和3年度当初の人事異動に伴う教員室・研究室の再配置を行った。

(5) 設備整備マスタープラン（案）の作成と審議

令和3年度について、3/1に高専機構本部より通知があり、3/2に系長等学内関係者に、設備整備マスタープランにかかる導入希望設備調査について依頼を出した。3/29を締め切りとしたことから、新年度の委員会構成員が評価することとした。

(6) 施設利用状況調査の実施

新型コロナウイルス感染防止対応に伴う業務軽減のため、実施しなかった。

改修工事については概ね計画通り進めることができたが、新型コロナウイルス感染防止対応に伴う業務軽減のため、一部の予定事業は実施を見送った。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

「進言1」

施設整備マスタープランの選定にかかわる基本方針を策定したことは評価できるが、各系の順位を考慮することを進言する。

「対応1」

基本方針は令和2年度の申請から適用することを想定して策定したものであるが、令和元年度の申請内容に沿って令和2年度の採択がなされるなど、従来と状況が大きく変わった。令和3年度の申請は、系の順位を尊重する方式に変更する予定である。

「進言2」

施設設備委員会委員に技術室長も加えることを提案する。

「対応2」

施設設備委員会の教員の委員は、副校長（総務担当）、3主事、専攻科長に施設の責任者としている。技術室長は「3主事、専攻科長」と立場が異なり、施設の責任者でもないことから、位置づけが

難しいと考える。

「進言3」

施設設備委員会業務に企画会議の予算審議を合わせた総務委員会へ組織改革することを提案する。

「対応3」

高専によっては予算審議を行う総務委員会をもっているところもある。しかし、施設設備委員会の業務に予算審議を加えるならば、現在の構成員にさらに委員を加える必要があり、審議事項も増える。業務の効率化に逆行することになると考える。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

とくになし。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 機械実習工場改修事業（概算）の実施
- (2) 基幹・環境整備（電気設備）事業の実施
- (3) 概算要求（案）、営繕事業（案）の作成と審議
- (4) キャンパスマスタープラン（案）の改定
- (5) 学科改組後の居室・設備の再配置の検討
- (6) 設備整備マスタープラン（案）の作成と審議
- (7) 施設利用状況調査の実施

令和2年度自己点検評価報告書

安全衛生委員会：

報告者（役職・氏名） 委員長・明石 尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	明石 尚之 副校長（総務担当）	
委員	須田 志優（岩手県立磐井病院）	産業医
〃	叶城 倫子（岩手県立磐井病院）	産業医
〃	大嶋江利子（有資格者：校長指名）	衛生管理者
〃	山口 恭一 総務課長	防火・防災管理者 及び安全管理者
〃	松本 仁一 事務部長	
〃	若嶋振一郎（校長が指名した委員（労働代表者推薦））	
〃	藤田 実樹（〃）	
〃	千田 栄幸（〃）	
〃	照井 教文（〃）	
〃	津田 大樹（〃）	
〃	白井 仁人（〃）	
〃	小岩 俊彦（〃）	
〃	明石 尚之 環境管理責任者	
総務課	高橋 説夫（総務） 佐藤 亮二（財務）	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 校内安全巡視、法定点検等（毎月）
- (2) 環境改善目標達成への進捗状況の報告（毎月）
- (3) 定期健康診断、ストレスチェックの実施
- (4) インフルエンザ予防接種の実施
- (5) 消防避難訓練の実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

年度計画の実施状況

- (1) 校内安全巡視、法定点検等（毎月）
計画通り実施した。
- (2) 環境改善目標達成への進捗状況の報告（毎月）
計画通り実施した。
- (3) 定期健康診断、ストレスチェックの実施

計画通り実施した。

(4) インフルエンザ予防接種の実施

計画通り実施した。

(5) 消防避難訓練の実施

計画通り実施した（ただし、簡略化して実施した）。

消防避難訓練は年度末に簡略化内容で実施したが、学生に対しては放送訓練であったとしてもできる限り実践に即したものを実施すべきであったと考える。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

「進言1」医薬品の保管場所やヒヤリハットの内容について、毎年度教員会議で少なくとも1回は提示することを進言する。

【対応1】医薬品の保管場所やヒヤリハットの内容は、Teamsの「【一関高専】ポータル」>「020 人事給与係」の「ファイル」におくこととする。また、4月・10月に教員会議資料掲載及びメール等により周知する。

「進言2」職場環境を良くするための意見聴取について、2年に1度の頻度を目安として実施することを提案する。

【対応2】令和3年度より、年1回、意見聴取を実施したい。

「進言3」委員会活動において、実効的な対応の実施を進言する。

【対応3】具体的な対応については、令和3年度に検討したい。

「進言4」校内安全巡視の際に、環境マネジメントに係る掲示文書（「環境宣言」、「環境改善目標」、「著しい環境影響項目及び重要環境活動項目」）、及び情報セキュリティに係る掲示文書「すぐやる三箇条」の掲示の点検を併せて実施したが、部屋の衣替え等により掲示されていない箇所も見受けられ、再確認の意味からも必要な確認事項と考える。

【対応4】安全衛生委員会が担当の環境マネジメントに係る掲示文書については、3ヶ月毎（4/15・7/15・10/15・1/15）にメール等にて定期的な呼びかけを行う。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 校内安全巡視、法定点検等（毎月）
- (2) 環境改善目標達成への進捗状況の報告（毎月）
- (3) 定期健康診断、ストレスチェックの実施
- (4) インフルエンザ予防接種の実施
- (5) 消防避難訓練の実施

2020年度 構内安全巡視実施結果一覧

巡視部門:化学工学実習工場ほか

実施日:令和2年5月27日(水)

No	棟	巡視結果
1	化学工学実習工場	・現在使われていない洗濯機が置かれていた。不要物品として処分する予定とのことであった。

巡視部門:電気・電子系

実施日:令和2年6月23日(火)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	4号棟 3F	教員室4-302	※整理整頓が必要。
2	" 3F	教員室4-303	※整理整頓が必要。
3	" 3F	研究室4-404	※高い位置に物が置いてある。
4	" 4F	電気情報通信実験室4-406	※高い位置に物が置いてある。
5	" 1F	廊下・コミュニケーションスペース	※通路に物が置いてある。
6	" 3F	"	※物品が置いてあり、整理整頓が必要。
7	" 4F~RF	踊り場	※物品が多数置いてある。
8	中庭(1号棟~2号棟間)	電気工作室	※プレハブが老朽化しているため、今後の利用について検討が必要。 使用するのであればロッカーの固定が必要。 ◎電気・電子系では、廃止の方向で検討中。

※は昨年も同様の指摘があった。

巡視部門:機械・知能系

実施日:令和2年7月14日(火)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	1号棟 1F(増棟)	廊下	部品棚が置かれている。整理整頓が必要。
2	" "	自動車リスク工学実験室1-110	ドア付近に椅子が置かれておりドアが開かない。
3	" "	人間工学実験室1-111	※ドア付近に棚があり完全に開かない。「環境目標」「すぐやる三箇条」の掲示無し
4	" 2F(増棟)	渡り廊下	不要な物品が置かれている。整理整頓が必要。
5	" 2F	精密測定実験室1-209	棚の上に重量物が置かれている。
6	" 2F	廊下	※不要な物品が置かれている。整理整頓が必要。
7	" "	メカトロニクス室1-206	整理整頓が必要。「環境目標」「すぐやる三箇条」の掲示無し
8	" 3F	教員室1-310	※「環境目標」「すぐやる三箇条」の掲示無し
9	" "	工学デザイン室1-313	※棚2台未固定。 ※テーブル上のボール盤(2台)とコンタマシン(4台)の固定が必要。 ※避難口付近の整理整頓が必要。
10	3号棟 1F	制御エネルギー実験室 3-101	ロッカー(1台)未固定、「環境目標」「すぐやる三箇条」の掲示無し
11	" "	機械エネルギー応用実験室 3-102	※棚の上に重量物が置かれてある。「すぐやる三箇条」の掲示無し
12	" "	機械エネルギー応用実験室3-104	※棚の上に段ボールや物品あり。

※は昨年も同様の指摘があった。

巡視部門:情報・ソフトウェア系

実施日:令和2年8月21日(金)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	1号棟 2F	教員室1-204	・床に物があり、整理整頓が必要。
2	" 3F	教員室1-309	・床に物があり、整理整頓が必要。
3	5号棟 3F	5-304, 5-305前の廊下	・不要品と思われる物品等があり、整理整頓が必要。
4	7号棟 2F	電子応用実験室 マイコン応用演習室7-203	・不要品と思われる物品等があり、整理整頓が必要。

巡視部門:機械実習工場ほか

実施日:令和2年9月14日(月)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	地域共同テクノセンター1F	総合演習実習室	・棚の上の物品の落下防止が必要
2	〃 〃	電子顕微鏡室	・非常口付近に物があり、動線が確保されていない
3	〃 2F	テクノセンター室	・書棚3、食器棚1の転倒防止が必要
4	〃 〃	ホール	・更衣ロッカー及び掃除ロッカーの転倒防止が必要

巡視部門:化学・バイオ系

実施日:令和2年10月27日(水)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	2号棟 1F	準備室2-105	冷蔵庫の転倒防止が必要
2	〃 〃	女子更衣室 2-109	不要物が置かれており、掃除が必要
3	〃 2F	準備室2-205	床にガラス破片がある 床の酸素ホースを段差モール等で対策する必要がある
4	〃 〃	化学第一機器分析室2-208	試薬が床に置かれたままである
5	〃 4F	工業化学小実験室2-402	ドア付近に棚が置かれてありドアが完全に開かない
6	〃 〃	廊下	蛍光管が切れており、廊下全体が暗い
7	5号棟 1F	化学バイオ系共同実験室2-106	入口にゴミ箱が置かれている
8	〃 〃	研究室5-107	材料(板)の転倒防止が必要
9	6号棟 1F	機材室6-104	ドアの下に電源コードが挟まったまま使用している
10	専攻科棟 2F	教員室専2-204	※ドア入口付近の木製ロッカーが未固定、棚(4つ)が未固定
11	〃 〃	廊下	※不要な棚(2つ)が未固定
12	専攻科棟 1F	物質化学工学実験室専104	※ドア付近・配電盤前に棚が置かれている

※は昨年も同様の指摘があった。

巡視部門:総合科学、体育館ほか

実施日:令和2年11月20日(金)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	管理・教育棟 3F	教員室 管-302	・書籍等が床に置いてあり整理整頓が必要。
2	〃	資料室 管-304	・書籍等が床に置いてあり整理整頓が必要。
3	〃	教員室 管-305	・書籍等が床に置いてあり、ドアが完全に開かない。整理整頓が必要。
4	〃	給湯室	・不要なロッカーあり。 ・ダンボール(不用品)が多数あり。
5	5号棟 3F	物理実験準備室	・書棚が未固定。
7	第2体育館	教員室	・棚が未固定。

巡視部門:メディアセンター・福利厚生施設

実施日:令和2年12月18日(金)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	福利厚生施設 2F	多目的室	・ロッカーの転倒防止がされていない。(前回指摘事項)

巡視部門:総務課・学生課・技術室ほか

実施日:令和2年1月19日(火)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	管理・教育棟 1F	管-102 総務課(財務担当)書	通路をふさぐ形で物が置かれている
2	〃 〃	管-113 メールボックス	不要物品(傘・空き箱)があり、管理者不明の物品も放置されている
3	〃 2F	管-112 共通資料室	物品の整理整頓が必要
4	〃 〃	管-205 学生課	床に物が置かれており、整理整頓が必要
5	〃 〃	管-203 事務部長室	棚の上に未固定の額が置かれている
6	〃 〃	管-204 校長室	棚の上のファイルボックスが未固定である
7	総合情報センター	管-104 トレーナー室	転倒防止対策のされていない棚やラックが多数ある
8	〃	管-107 サーバー室	空き箱の整理整頓が必要
9	総務課倉庫(裏口用口側)	総務課倉庫	※物品の整理整頓が必要

※は昨年も同様の指摘があった。

巡視部門:専攻科・教育棟

実施日:令和2年2月17日(水)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	専攻科・教育棟 2F	ゼミ室1 (専-201)	東側入口左側の外用扉のドアクローザーが壊れている。
2	〃 〃	ゼミ室2 (専-202)	東側入口脇の壁に穴が開いている。
3	〃 3-4F	階段踊り場	東側階段の3-4Fの踊り場の壁に穴が開いている。

巡視部門:学生寮

実施日:2020年3月24日(水)

No	棟	部屋名	巡視結果
1	北寮 1F	事務室	棚の上に空箱が置いてあり、落下の危険性がある。
2	〃 〃	寮務主事室	棚の上に空箱が置いてあり、落下の危険性がある。
3	〃 〃	保健室	棚の上に空箱が置いてあり、落下の危険性がある。
4	〃 〃	自習・談話室	棚の上に物が置いてあり、落下の危険性がある。
5	〃 〃	留学生補食室	※棚の上に物が置いてあり、落下の危険性がある。

※は昨年も同様の指摘があった。

法定点検等の実施状況報告(令和3年3月)

R3.4.21

	点検・検査等	頻度	実施日時	点検者	点検結果
2月	水道残留塩素測定(校舎・福利厚生・寮)	週1回	3月4日・10日・19日・23日・30日	新生ビル管理(株)建築物環境衛生管理技術者	基準値(0.1mg/L)以上 (校舎棟1Fコミュニケーションスペース 0.1、 学校食堂厨房 0.3-0.2、寮食堂厨房 0.5-0.4) 基準値以上なので問題なし
	・自家用電気工作物点検	隔月	2月26日	東北電気保安協会	指摘事項:なし 指導事項:(前回から引き続き) 第1・第2電気室内で20年以上経過した機器 等の更新(断路器、遮断機、開閉器、変圧 器、高圧コンデンサ等)、第1電気室の電流 計、電圧計の更新
	・自動ドア保守点検	毎四半期	3月11日	(株)岩手ナブコ	異常なし
	・エレベーター点検(4号棟)	毎月	3月10日	日本エレベーター製造(株)	異常なし
	・エレベーター点検(専攻科棟)	毎月	3月23日	オーチス・エレベーターサービス(株) (シンドラーエレベーター(株)より引継)	異常なし
	・ねずみ・昆虫等調査(福利厚生・寮食堂)	隔月	3月17日	新生ビル管理(株)	調査結果:良好(別紙のとおり)

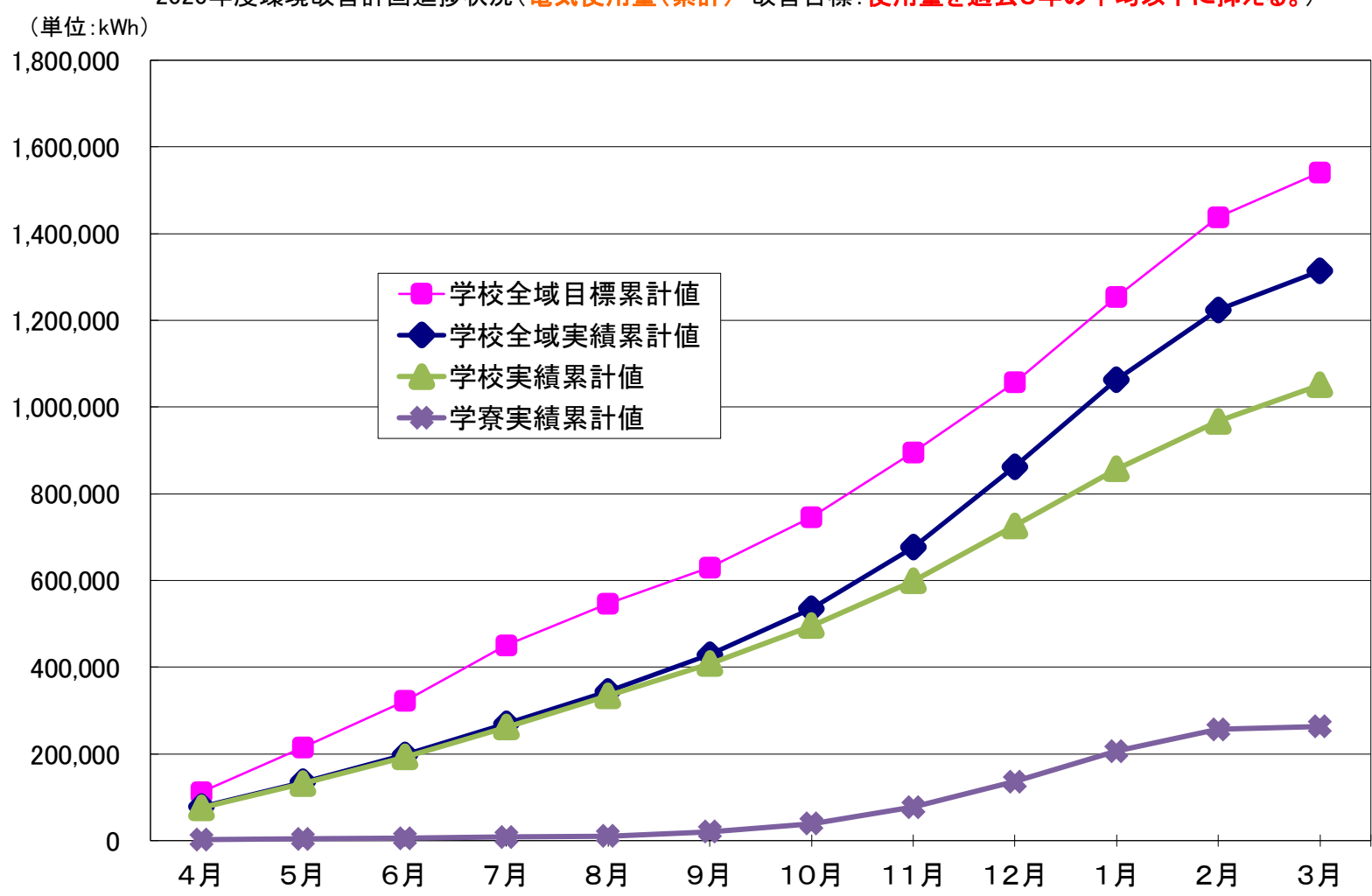
AED保守点検状況

	設置場所(管理部門)	メーカー・型番	パット(3年毎)		バッテリー (4年毎)	定期点検結果 (R3.4.21)
1	管理・教育棟玄関1階 (総務課契約係)	フィリップス・ハートスタート FRx+ 861304 (H29.3.30設置)	交換月	令和 元年 6月	令和 3年 2月	○(※)
			次回	令和 3年 8月	令和 7年 2月	
2	校舎新棟北側非常口外側(野球場) (学生課学生支援係)	フィリップス・ハートスタート HS1 M5066A (H22.3.19設置)	交換月	令和 元年 6月	令和 年 月	○(※)
			次回	令和 3年 8月	令和 4年 7月	
3	第一体育館北側外壁面 (学生課学生支援係)	フィリップス・ハートスタート HS1 M5066A (H25.3.26設置)	交換月	令和 元年 6月	平成29年 3月	○(※)
			次回	令和 3年 8月	令和 4年 7月	
4	学生寮玄関 (学生課寮務係)	フィリップス・ハートスタート FRx 861304+ (H31.3.26設置)	交換月	令和 3年 2月	令和 年 月	○(※)
			次回	令和 5年 5月	令和 5年 3月	

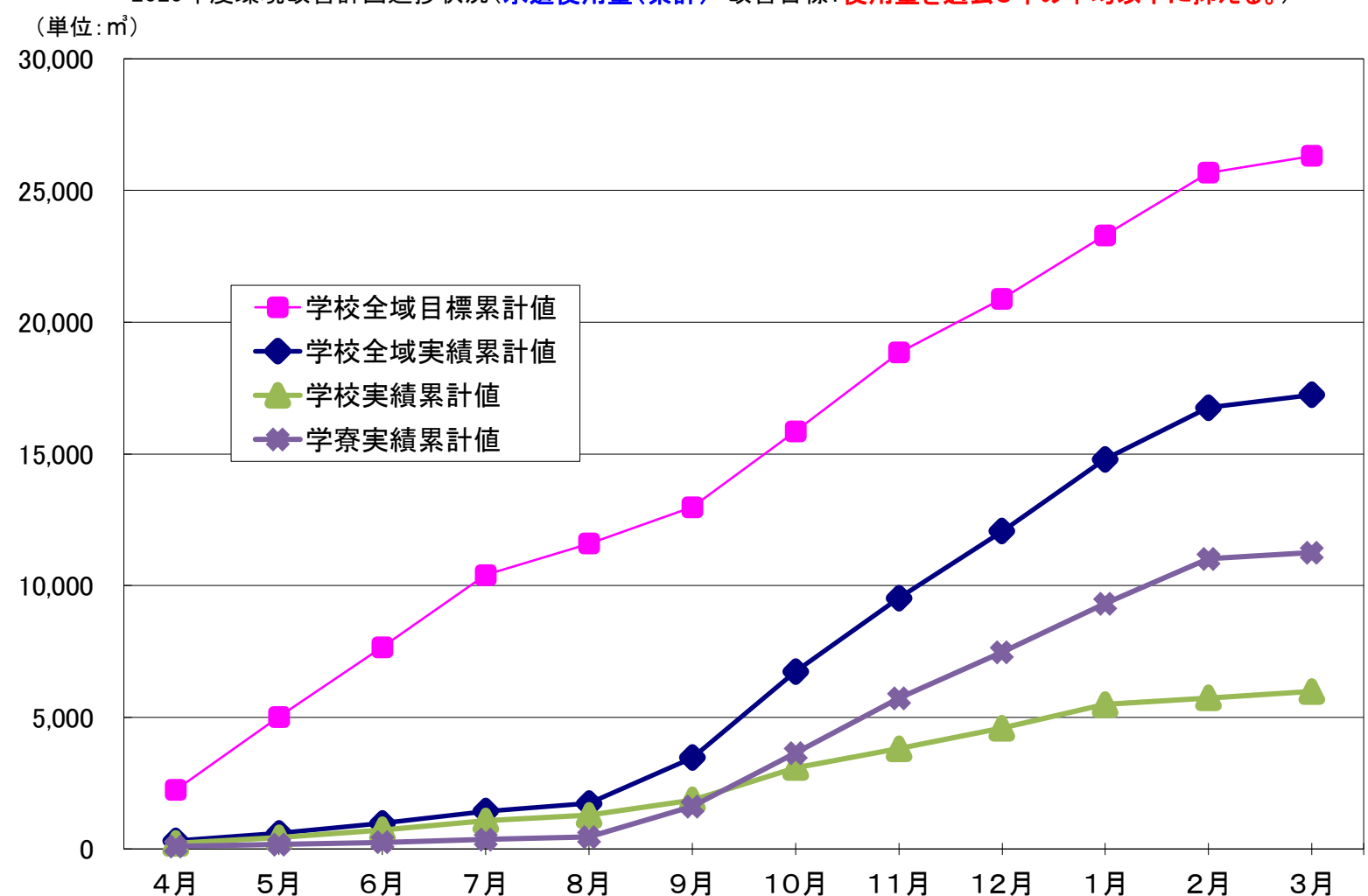
※ AEDを収納ボックスから取り出す際の警報音, AEDバッテリーの残量及び付属品のパッド等の点検を行った。点検の結果, 期限切れや異常は認められなかった。

次回点検予定(3ヶ月毎)	令和 3年 7月
--------------	----------

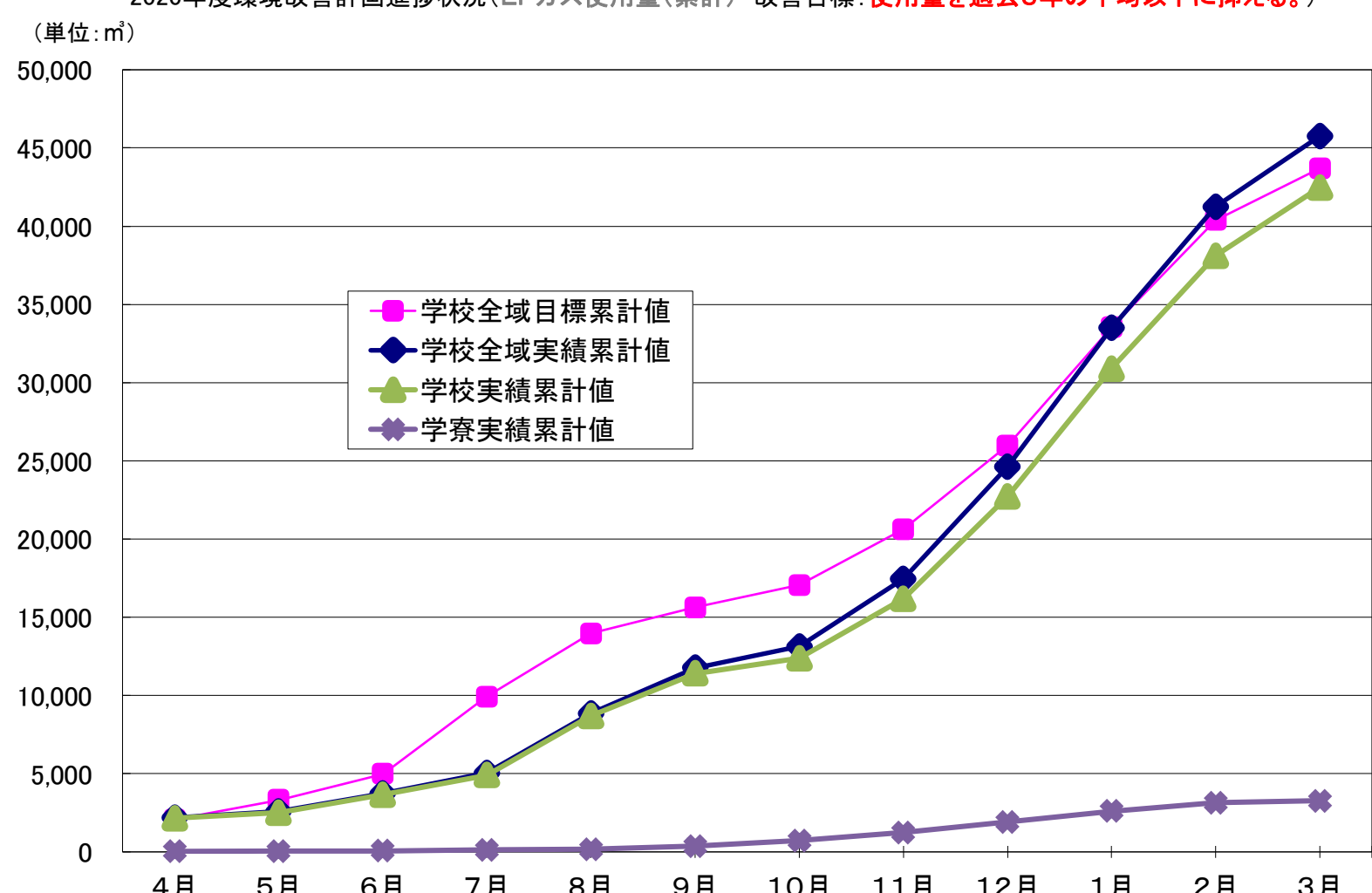
2020年度環境改善計画進捗状況(電気使用量(累計) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



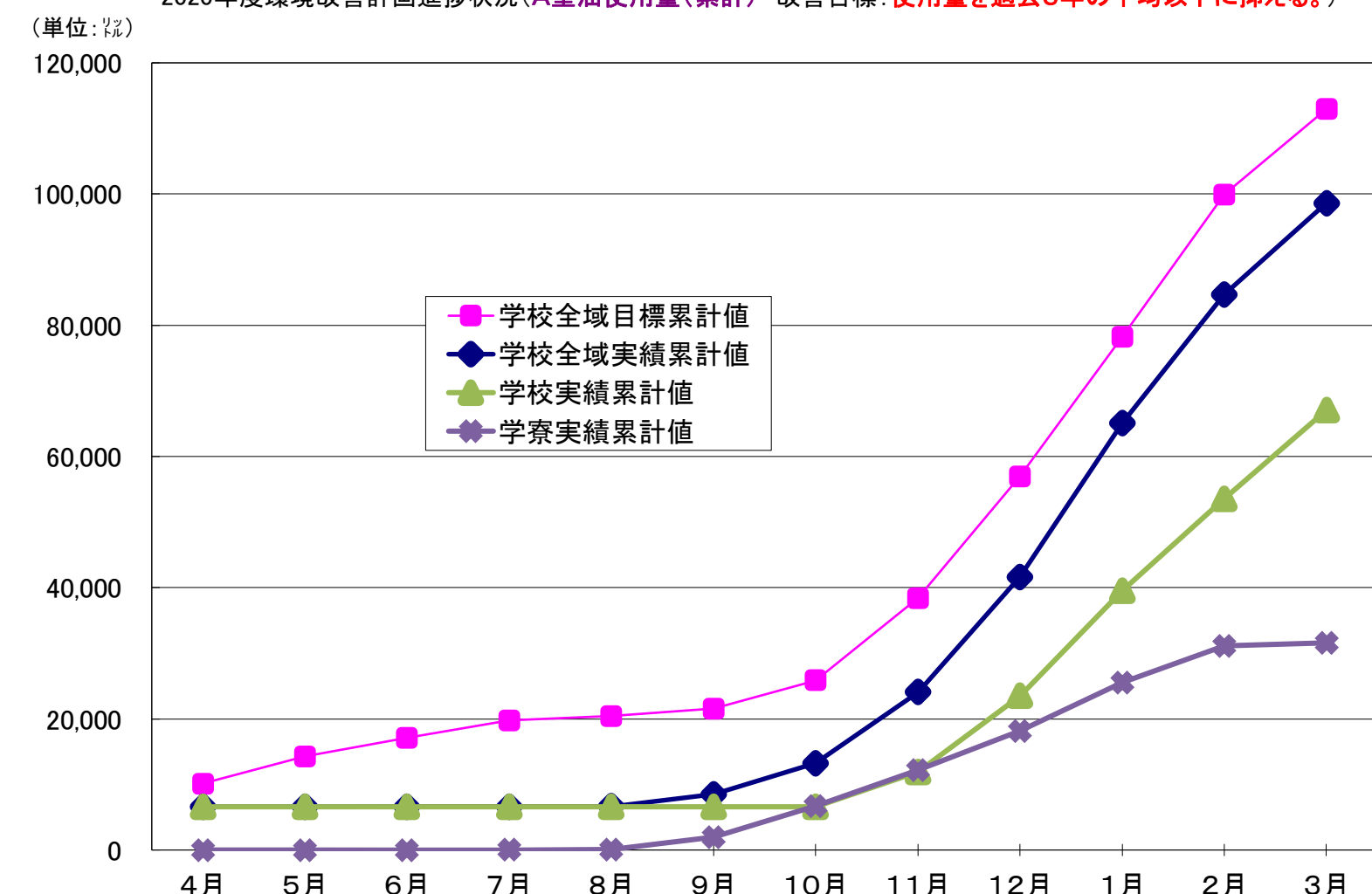
2020年度環境改善計画進捗状況(水道使用量(累計) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



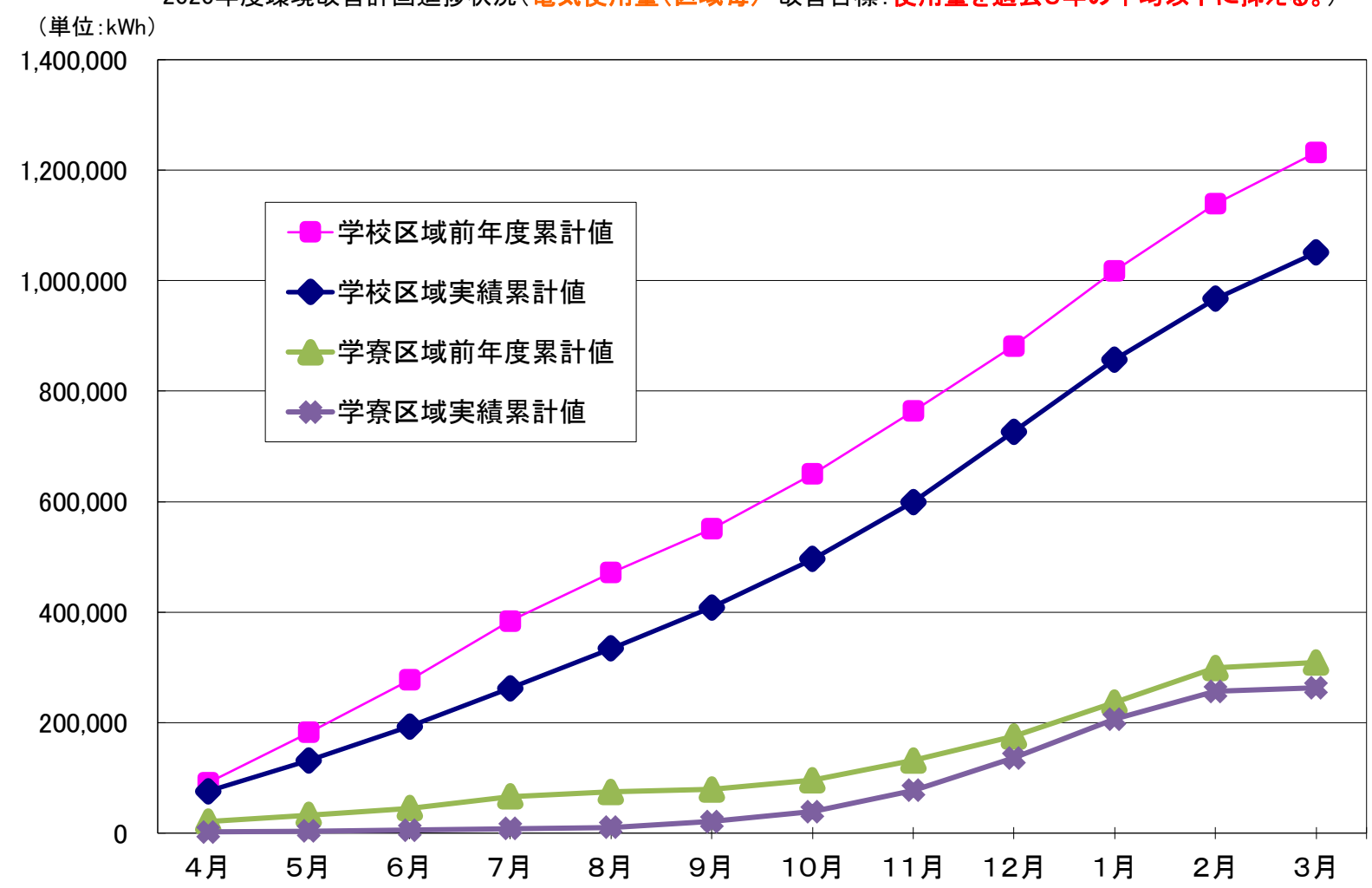
2020年度環境改善計画進捗状況(LPガス使用量(累計) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



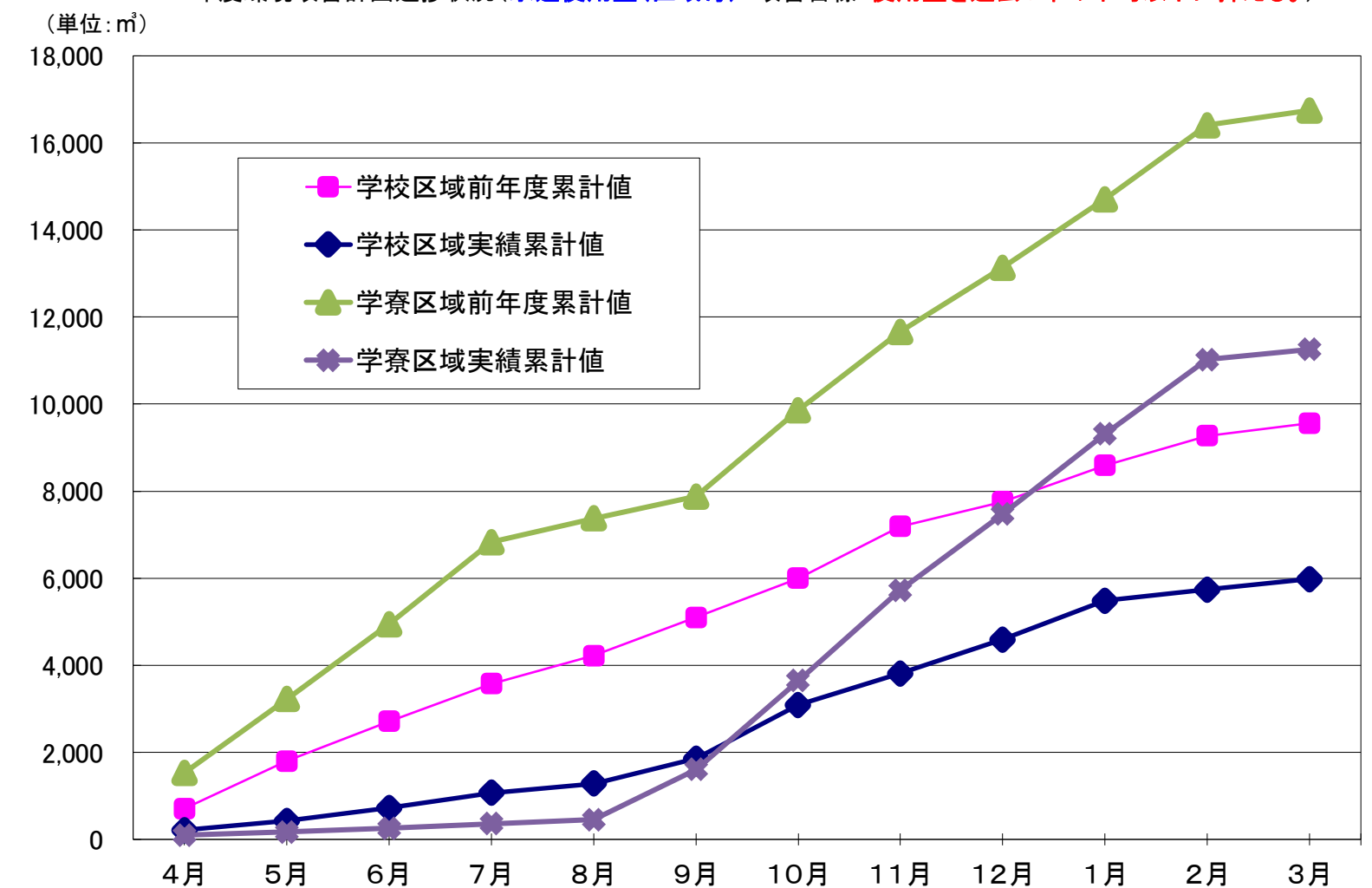
2020年度環境改善計画進捗状況(A重油使用量(累計) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



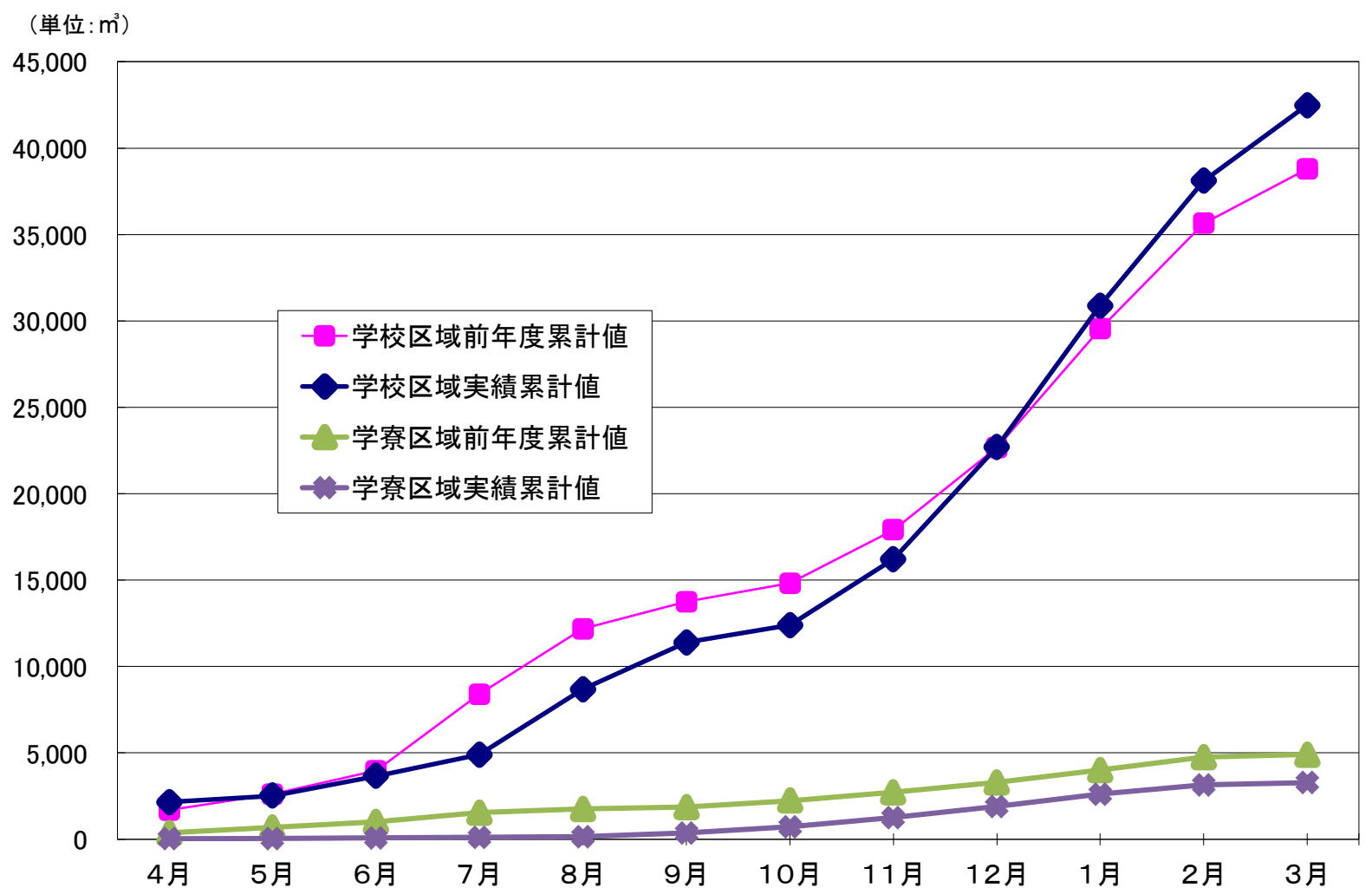
2020年度環境改善計画進捗状況(電気使用量(区域毎) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



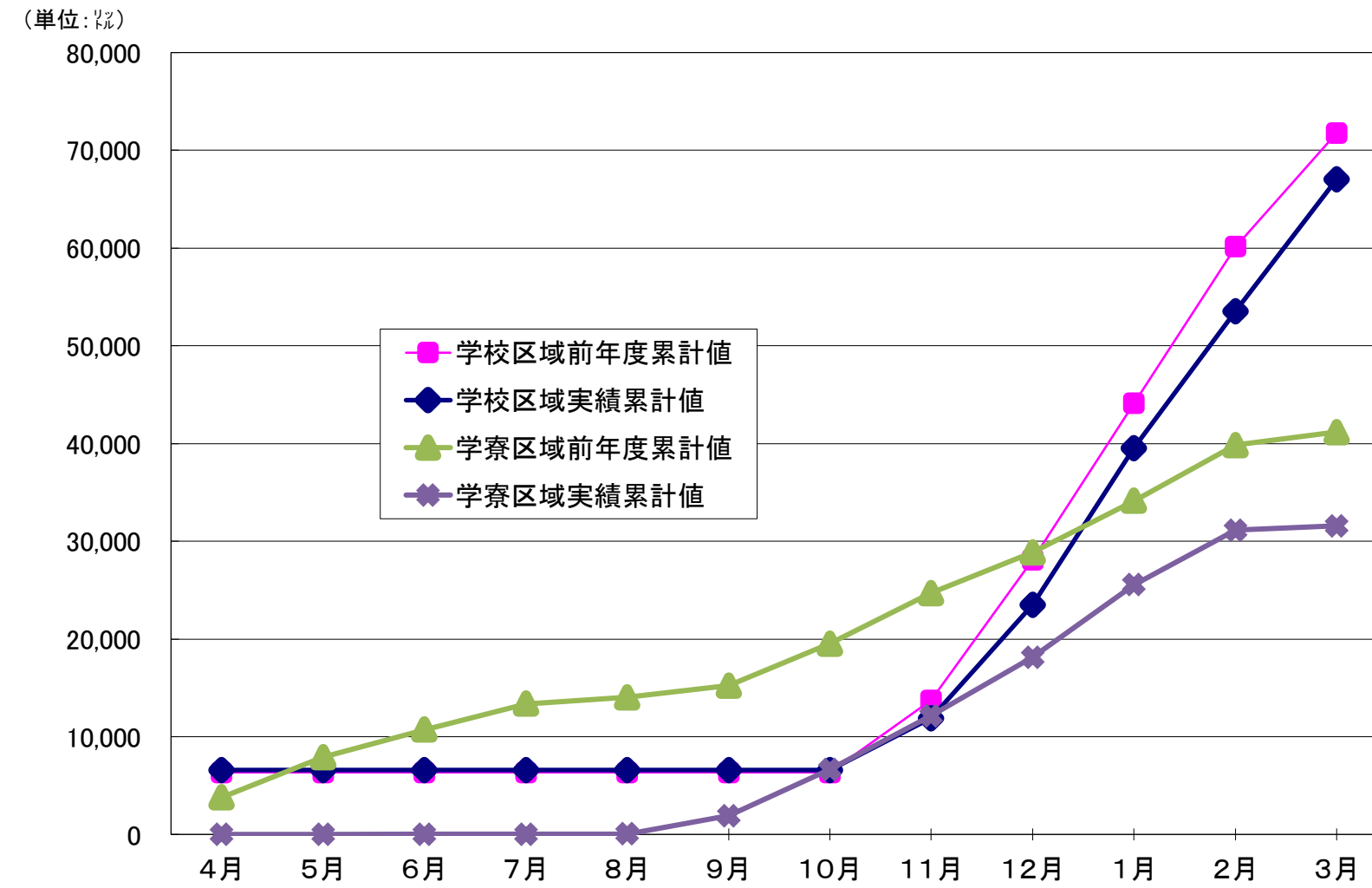
2020年度環境改善計画進捗状況(水道使用量(区域毎) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



2020年度環境改善計画進捗状況(LPガス使用量(区域毎) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



2020年度環境改善計画進捗状況(A重油使用量(区域毎) 改善目標:使用量を過去3年の平均以下に抑える。)



2020年度 環境改善計画書兼進捗管理書(2020年4月~2021年3月)

一関工業高等専門学校
【学校全域(常駐業者は除く)】

計画書制定日: 2020年4月1日 改定日:
実績記入日: 2021年4月20日

承認	作成

環境改善目標	具体的施策		目標と日程												実行責任者
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 電力の節約 電力使用量を過去3年の平均以下に抑える (単位:kWh)	1.1不在時の消灯 1.2エアコン温度の適正管理 1.3休憩時間の消灯 1.4廊下、トイレ等の消灯	過去3年の平均実績値	111,941	103,175	107,080	127,909	96,200	83,593	116,174	149,450	161,109	197,646	183,724	103,085	寮務主事 事務部長
		今年度目標値	111,941	103,175	107,080	127,909	96,200	83,593	116,174	149,450	161,109	197,646	183,724	103,085	
		同上累計値	111,941	215,116	322,196	450,105	546,305	629,898	746,072	895,522	1,056,631	1,254,277	1,438,001	1,541,086	
		今年度実績値	78,156	57,220	62,504	72,101	74,500	84,325	106,152	141,491	185,872	200,947	160,816	89,981	
		同上累計値	78,156	135,376	197,880	269,981	344,481	428,806	534,958	676,449	862,321	1,063,268	1,224,084	1,314,065	
		削減率	30.18%	37.07%	38.58%	40.02%	36.94%	31.92%	28.30%	24.46%	18.39%	15.23%	14.88%	14.73%	
		達成率	143.23%	158.90%	162.82%	166.72%	158.59%	146.90%	139.46%	132.39%	122.53%	117.96%	117.48%	117.28%	
		適合性評価	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
2 水の節約 上水道使用量を過去3年の平均以下に抑える (単位:m³)	2.1水を出しっぱなしにしない 2.2水を出し過ぎない 2.3風呂水の節水に努める 2.4洗濯物のまとめ洗い励行	過去3年の平均実績値	2,234	2,786	2,640	2,744	1,195	1,375	2,887	2,986	2,043	2,408	2,379	633	寮務主事 事務部長
		今年度目標値	2,234	2,786	2,640	2,744	1,195	1,375	2,887	2,986	2,043	2,408	2,379	633	
		同上累計値	2,234	5,020	7,660	10,404	11,599	12,974	15,861	18,847	20,890	23,298	25,677	26,310	
		今年度実績値	312	285	380	454	301	1,732	3,274	2,794	2,532	2,732	1,960	483	
		同上累計値	312	597	977	1,431	1,732	3,464	6,738	9,532	12,064	14,796	16,756	17,239	
		削減率	86.03%	88.11%	87.25%	86.25%	85.07%	73.30%	57.52%	49.42%	42.25%	36.49%	34.74%	34.48%	
		達成率	716.03%	840.87%	784.03%	727.04%	669.69%	374.54%	235.40%	197.72%	173.16%	157.46%	153.24%	152.62%	
		適合性評価	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
3 LPガスの節約 LPガス使用量を過去3年の平均以下に抑える (単位:m³)	3.1エアコン温度の適正管理	過去3年の平均実績値	2,067	1,254	1,665	4,946	4,027	1,672	1,426	3,568	5,358	7,556	6,851	3,309	寮務主事 事務部長
		今年度目標値	2,067	1,254	1,665	4,946	4,027	1,672	1,426	3,568	5,358	7,556	6,851	3,309	
		同上累計値	2,067	3,321	4,986	9,932	13,959	15,631	17,057	20,625	25,983	33,539	40,390	43,699	
		今年度実績値	2,191	389	1,165	1,296	3,810	2,921	1,351	4,338	7,161	8,877	7,762	4,501	
		同上累計値	2,191	2,580	3,745	5,041	8,851	11,772	13,123	17,461	24,622	33,499	41,261	45,762	
		削減率	-6.00%	22.31%	24.89%	49.24%	36.59%	24.69%	23.06%	15.34%	5.24%	0.12%	-2.16%	-4.72%	
		達成率	94.34%	128.72%	133.14%	197.02%	157.71%	132.78%	129.98%	118.12%	105.53%	100.12%	97.89%	95.00%	
		適合性評価	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	B	
4 A重油の節約 A重油使用量を過去3年の平均以下に抑える (単位:ℓ)	4.1室内温度の適正化 (暖房装置のバルブをこまめに操作する) 4.2風呂用ボイラの効率的運転	過去3年の平均実績値	10,138	4,116	2,815	2,649	677	1,163	4,302	12,580	18,522	21,274	21,723	13,000	寮務主事 事務部長
		今年度目標値	10,138	4,116	2,815	2,649	677	1,163	4,302	12,580	18,522	21,274	21,723	13,000	
		同上累計値	10,138	14,254	17,069	19,718	20,395	21,558	25,860	38,440	56,962	78,236	99,959	112,959	
		今年度実績値	6,588	0	1	14	36	1,883	4,736	10,809	17,567	23,462	19,603	13,934	
		同上累計値	6,588	6,588	6,589	6,603	6,639	8,522	13,258	24,067	41,634	65,096	84,699	98,633	
		削減率	35.02%	53.78%	61.40%	66.51%	67.45%	60.47%	48.73%	37.39%	26.91%	16.80%	15.27%	12.68%	
		達成率	153.89%	216.36%	259.05%	298.62%	307.20%	252.97%	195.05%	159.72%	136.82%	120.19%	118.02%	114.52%	
		適合性評価	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
5 啓発活動 一関高専敷地内及び周辺の清掃	5.1 全教職員及び全学生による一斉清掃 (3回/年) 【適合性評価の対象としない】	今年度目標												学生主事 寮務主事	
		今年度実績													
環境管理責任者の確認評価(3ヶ月毎に実施)	総合適合性評価														
	不適合の内容														
	修正対策等														
最高責任者の評価コメント(3ヶ月毎に実施)															

適合性評価:A良好(目標以上を達成)、Bやや不足(90%以上を達成)、C不適合(達成度が90%未満)
注:C不適合と判定された場合、直ちに原因を調査し、修正処置を講ずること。Bやや不足となった場合、予防処置を講ずる。
総合適合性評価は一番悪いものの評価を記入する。

令和2年度自己点検評価報告書

広報室：

報告者（役職・氏名） 室長・明石 尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
室長	明石 尚之 副校長（総務担当）	
室員	下川 理英 総務担当補佐：11/8 まで	
〃	中嶋 剛 総務担当補佐：11/9 より	
〃	佐藤 一樹 教務主事補	
〃	小野 孝文 学生主事補	
〃	渡邊 崇 寮務主事補	
〃	藤原 康宣 副テクノセンター長	
〃	山口 恭一 総務課長	
〃	中山美喜也 学生課長	
〃	小岩 俊彦 技術長	
総務課	阿部 恵悦 企画・情報係長 加藤 卓也 総務係長	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 学校HPの管理
- (2) 学校要覧の作成
- (3) 学校案内の作成
- (4) 学校紹介 TV テレビ番組の制作
- (5) 学校広報ポスター（ホットライン）の作成
- (6) 中学校訪問の企画・実施
- (7) 高校説明会への対応
- (8) オープンキャンパスの企画・実施
- (9) 学校説明会（中学生・保護者向け説明会）の企画・実施
- (10) 入試説明会（中学校教員向け説明会）の企画・実施

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 学校HPの管理

必要最低限の更新は行ったが、古いコンテンツを更新することができなかった。新型コロナウイルス関連では、当初は TOPICS を利用していたが、制約が大きく、WordPress による特設サイトを開設し、運用を継続している。

- (2) 学校要覧の作成

- 予定通り制作した。
- (3) 学校案内の作成
予定通り制作した。
- (4) 学校紹介 TV テレビ番組の制作
新型コロナウイルス感染拡大に伴い、遠隔授業で学生が不在であり、学外者の入校を控えたことから、制作を取りやめた。
- (5) 学校広報ポスター（ホットライン）の作成
予定通り制作した。
- (6) 中学校訪問の企画・実施
新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止した。
- (7) 高校説明会への対応
説明者の派遣依頼のあった中学校 30 校を訪問し、中学生・保護者に対して説明を行った。ちなみに、前年は 46 校からの派遣依頼があった。
- (8) オープンキャンパスの企画・実施
参集形式は取りやめ、オンライン方式にて実施した。
- (9) 学校説明会（中学生・保護者向け説明会）の企画・実施
参集形式は取りやめ、オンライン方式にて実施した。
- (10) 入試説明会（中学校教員向け説明会）の企画・実施
参集形式は取りやめ、オンライン方式にて実施した。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、計画の変更を余儀なくされたが、参集方式をオンライン方式に変更するなど、可能な範囲で対応することができたと考える。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

「進言 1」

広報室を学校全体の広報の方針を決定する広報センターへ改組することを提案する。

「対応 1」

広報室長は、副校長である。学校全体の広報の方針は改組をしなくとも、広報室長が提案し運営委員会で決定すればよいと考える。

「進言 2」

今後の若年人口の減少を見据えて本格的な委員会とし、責任者を副校長（総務担当）ではなく専任の長とすることを提案する。

「対応 2」

教員定員が 64 名から 61 名に削減されることとなった状況を考えると、新たなポストを新設する余裕はないと考える。

「進言 3」

少子化を踏まえ広報戦略を立案し、運営委員会や企画会議に審議依頼する取り組みの検討を進言する。

「対応3」

データ分析を行う教学 IR 室と連携して、少子化を踏まえた広報戦略を議論していきたい。

「進言4」

審議のための分析結果を提示することを進言する。

「対応4」

データ分析については、教学 IR 室が担当している。

「進言5」

副校長（総務担当）と総務担当補佐の2名で多くの業務を担っていて、負担が過多になっていると考える。各広報活動の効果を検証しつつ、業務の効率化の検討を進言する。

「対応5」

進言の通り、各広報活動の効果を検証しながら、業務の効率化を進めていきたい。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

中学生に対する広報活動の機会としては、中学校が上級学校の教員を招いて説明会を行う「高校説明会・上級学校説明会」を重視するのがよいと考える。中学校訪問については、中学校教員との情報交換の機会という観点で必要なものと考え、業務の効率化を考え、令和2年度より以下の通り縮小することとした。今年度は実施できなかったが、覚え書きとして記載しておく。

- ・一関地区以外については、現在の半数の中学校を毎年交互に訪問する。
- ・隔年訪問する中学校の区分けに際しては、とくに地区単位でまとめることはしない。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 学校HPの管理
- (2) 学校要覧の作成
- (3) 学校案内の作成
- (4) 学校紹介 TV テレビ番組の制作
- (5) 学校広報ポスター（ホットライン）の作成
- (6) 中学校訪問の企画・実施
- (7) 高校説明会への対応
- (8) オープンキャンパスの企画・実施
- (9) 学校説明会（中学生・保護者向け説明会）の企画・実施
- (10) 入試説明会（中学校教員向け説明会）の企画・実施

令和2年度自己点検評価報告書

進路指導室：

報告者（役職・氏名） 室長・明石 尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
室長	明石 尚之	
室員	下川 理英（総務担当補佐：11/8 まで）	
〃	中嶋 剛（総務担当補佐：11/9 より）	
〃	若嶋振一郎（機械工学科担当）	
〃	小野 孝文（電気情報工学科担当）	
〃	柴田 勝久（制御情報工学科担当）	
〃	戸谷 一英（物質化学工学科担当）	
〃	岡本 健（専攻科担当）	
〃	三浦 弘樹（4M 担任）	
〃	河原田 至（4E 担任）	
〃	水津 俊介（4J 担任）	
〃	佐藤 和久（4C 担任）	
〃	中山美喜也（学生課長）	
	及川 尚（学生支援係長）	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 進路ガイダンス，就職進学ガイダンスの実施
- (2) 外部講師による進路講座を4回シリーズで実施
- (3) 地域企業情報ガイダンスの学生参加率向上
- (4) 合同企業説明会の参加募集と取りまとめ

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 進路ガイダンス，就職進学ガイダンスの実施
進路ガイダンス(8/5)，就職進学ガイダンス(11/26)
- (2) 外部講師による進路講座を4回シリーズで実施
前期は実施することができず，後期に「第1回（業界・企業研究）(11/10)」，「第2回（自己分析）(12/22)」，「第3回（面接）(11/12)」の3回を実施した。
- (3) 地域企業情報ガイダンスの学生参加率向上

新型コロナウイルス感染拡大に伴って、開催されなかった。

(4) 合同企業説明会の参加募集と取りまとめ

新型コロナウイルス感染拡大に伴って、開催されなかった。

新型コロナウイルス感染拡大に伴って、前期が遠隔授業になったことから、進路関係の指導が遅れ、8/5の進路ガイダンスが進路指導室として最初の進路指導となった。後期については、ほぼ予定通り実施することができた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

<進言1>

編入学や大学院進学に関する進学支援を充実させる必要があり、特に本科は半数以上が進学する状況であるので、ガイダンスを増やすなどの支援拡充を進言する。

<対応1>

進学希望者向けのガイダンスの内容は、心構えや勉強方法がメインと考える。例年5～6月に実施してきた進路ガイダンスは、ここ数年クラス単位で実施していた。今年度から進路指導室主催で統一した内容を実施している。今年度は8/5と遅くなったが、次年度は6/17を予定している。上述したように、進学希望者に対する心構えや勉強方法について取り上げたい。

<進言2>

学科・系によっては就職担当と進路指導室メンバーが異なる場合があるので、確実に情報共有がなされるよう就職担当が進路指導室に入るようにすることを提言する。

<対応2>

現在、進路指導室の構成員は、4年担任、本科の就職担当教員（以前は、学科長）、専攻科担当1名としている。就職関係の連絡は、進路指導室長より、全就職担当に伝えるようにしている。

<進言3>

発達障害者の進路指導について、進学・就職先への情報開示の在り方や、保護者が有識者のアドバイスを受けられるような具体的な仕組みづくりを要望する。

<対応3>

個々の学生の状況に応じて、就職担当教員、進路指導室、保健管理センターで連携をとりながら、対応したいと考える。具体的な対応例としては、インターンシップであれば、個別企業とつながりを持っている教員が仲介に入る、就職であればジョブカフェに相談する、といったことが考えられる。

<進言4>

本格的な委員会とし、責任者を校長補佐（総務担当）ではなく専任の長とすることを提案する。

<対応4>

教員定員が64名から61名に削減される状況において、新規のポストを設ける余裕はないと考える。業務の効率化によって対応すべきと考える。

<進言 5>

SPI 模擬試験の受験者が少ないように感じられる。半数の学生が就職するため、受験者を増やすことを要望する。

<対応 5>

意見交換の結果、就職担当から就職希望者に対して、SPI 模試の受験を、推薦書を出す際の条件とすることが提案され、一部試行されている。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

2021 年春就職者向けの求人票は、Teams の教員チャネルを利用した。今年度、関係者で話し合った結果、2022 年春就職者向けの求人票は、Teams の「【一関】学生ポータル」>「021 就職・進学」のチャネルを使い、「ファイル」>「求人票」>「2021 年度」の下に置くこととした。なお、求人票は学内限定情報のため、閲覧のみとし、求人票の pdf ファイルは印刷不可としている。3/29 現在 551 社の求人票が掲載されている。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 進路ガイダンス、就職進学ガイダンスの実施
- (2) 外部講師による進路講座を 4 回シリーズで実施
- (3) 地域企業情報ガイダンスの学生参加率向上

令和2年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域共同テクノセンター委員会

報告者（役職・氏名） 地域共同テクノセンター委員会委員長・鈴木明宏

1 構成員および主な担当業務（一覧）

役職等	氏名	担当業務
委員長	鈴木 明宏	委員会業務の掌握
委員（副センター長・部門長）	佐藤 和久	地域イノベーション部門
委員（副センター長・部門長）	藤原 康宣	地域連携部門
委員（副センター長・部門長）	原 圭祐	人材育成事業部門
委員（副部門長）	佐藤 智治	地域イノベーション部門
委員（副部門長）	貝原 巳樹雄	地域連携部門
委員（副部門長）	川上 雅士	人材育成事業部門
委員	佐藤 昭規	産学官連携コーディネータ
委員	松本 仁一	事務部門
総務課	千葉 正義	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) テクノセンター委員会9名体制（センター長1名，副センター長3名，副部門長3名，CD1名，事務部長）で実働部隊とする。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV 講座開催と地元企業共同研究の両輪。H30年から3年。委託費109,461千円）を継続する。①連携する工業高校や産業技術短大向けに「EV ミニアカデミー」を実施する。②企業技術者・高専生・求職者向けに「EV アカデミー」を実施する。③高度企業技術者等向けに「R&D アカデミー」を開催する。
- (3) EV 人材育成事業を JICA・ODA の普及・実証事業に申請する。
- (4) 岩手県内競争的資金の獲得を目指し，各教員へ積極的な申請を促す。
- (5) 一関市の支援を受け企業技術者・管理者向けの公開講座（一関市委託ものづくり産業振興事業：品質工学，MOT，原価管理，3D CAD）を実施する。
- (6) 全国レベルの産学官連携催事（メッセナゴヤ2020など）や学会・国際会議に参加する。
- (7) 地域貢献の一環として「いわてサイエンスシンポジウム」，「おおさき産業フェア2020」，「リエゾン-I マッチングフェア」，「産学官金連携フェア2020 みやぎ」，「一関市企業情報交換会」などへ出展する。
- (8) 地域の大学高専連携として，4校学術交流会に参加する。
- (9) AI 人材育成事業 AI セミナー（岩手県庁政策地域部 学事振興課からの依頼）を開催する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) テクノセンター委員会 9 名体制（センター長 1 名，副センター長 3 名，副部門長 3 名，CD1 名，事務部長）とした。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV 講座開催と地元企業共同研究の両輪。H30 年から 3 年。委託費 109,461 千円）を継続した。①連携する工業高校や産業技術短大向けに「EV ミニアカデミー」を実施した。②企業技術者・高専生・求職者向けに「EV アカデミー」を実施した。③高度企業技術者等向けに「R&D アカデミー」を開催した。
- (3) EV 人材育成事業を JICA・ODA の普及・実証事業に申請し採択しているが，COVID-19 感染拡大のため事業実施は未定である。
- (4) 岩手県内競争的資金の獲得を目指し，各教員へ積極的な申請を促した（リーダー企業採択，分担 1 件）。
- (5) 一関市の支援を受け企業技術者・管理者向けの公開講座（一関市委託ものづくり産業振興事業：品質工学，MOT，原価管理，3D CAD）は，COVID-19 感染拡大のため中止した。
- (6) 全国レベルの産官学連携催事（メッセナゴヤ 2020 など）が COVID-19 感染拡大のため開催中止となった。
- (7) 地域貢献の一環として「リエゾン-I マッチングフェア」，「ロボコン&5 インチゲージデモ（一関地区まちづくり推進協議会）」などへ出展した。「一関市企業情報交換会」は COVID-19 感染拡大のため開催中止となった。
- (8) 地域の大学高専連携として，4 校学術交流会に参加予定であったが，COVID-19 感染拡大のため開催中止となった。
- (9) AI 人材育成事業 AI セミナー（岩手県庁政策地域部 学事振興課からの依頼）を実施した。
県内企業技術者，県内大学/高専/高校生を対象
12/12～13 初級セミナー（オンライン方式で実施，講師 佐藤（智），TA 学生 4 名）
1/9～1/11 中級セミナー（オンライン方式で実施，講師 東大松尾研究室）

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

R1 年度改善の進言：

- (1) 厚労省事業の継続のために，一関市や岩手県との連携を具体的に進めることを進言する。
- (2) 地域連携活動について，中期計画に沿った数年単位の戦略を立案して活動することを進言する。
- (3) 令和元年度地域共同テクノセンター委員会第 3 回会議において委員から出された意見、①テクノセンター業務に対する学校の評価が不明確、②地域連携担当と研究担当に分ける必要性がない、③学校に対する地域自治体の動きが見えない、について検討を行うよう進言する。

改善の進言への対応：

- (1) 一関市役所と月 1 程度の地方創生推進会議を実施した。
- (2) 今後 COVID-19 の影響が不透明であり，数年単位の戦略が立てられなかった。
- (3) ①毎年，点検評価委員会において学校の評価がされているため不透明ではない
②テクノセンター業務が多くこなさきれないため，H30 年度から地域連携と研究担当に分けているため，必要性がないわけではない。

③R2 年 1 月に、一関市が取得する予定の NEC 跡地の利用を学校に提案するなどのような動きもあり、機会がなかっただけである。

2.4 来年度の年度計画

- (1) 岩手県からの委託事業として、厚生労働省の地域創生人材育成事業（EV 人材育成コース）の内容を縮小して実施する。①企業技術者・高専生・求職者向けに「EV アカデミー」を 7 月開催する。②連携する工業高校や産業技術短大向けに「EV ミニアカデミー」を実施する。
- (2) 一関市の支援を受け企業技術者・管理者向けの公開講座（一関市委託ものづくり産業振興事業：品質工学，MOT，原価管理，3D CAD）を実施する。
- (3) 全国レベルの産官学連携催事（メッセナゴヤ 2021 など）に参加する。
- (4) 地域貢献の一環として「いわてサイエンスシンポジウム」、「きたかみ・かねがさきテクノメッセ」、「おおさき産業フェア 2021」、「リエゾン-I マッチングフェア」、「産学官金連携フェア 2021 みやぎ」、「一関市企業情報交換会」などへ出展する。

令和2年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域共同テクノセンター運営委員会知的財産部会

報告者（役職・氏名） 地域共同テクノセンター運営委員会知的財産部会長・鈴木明宏

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	鈴木 明宏（地域共同テクノセンター長）	部会業務の掌握
委員	松尾 幸二（教務主事）	部会業務
〃	中山 淳（専攻科長）	部会業務
〃	戸谷 一英 校長補佐（研究担当）	部会業務
〃	藤原 康宣(副地域共同テクノセンター長)	部会業務
〃	佐藤 和久(副地域共同テクノセンター長)	部会業務
〃	原 圭祐(副地域共同テクノセンター長)	部会業務
〃	貝原 巳樹雄	部会業務
〃	山口 恭一（総務課長）	部会業務
〃	中山 美喜也（学生課長）	部会業務
総務課	千葉 正義	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 知財部会の人員削減を検討する。
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準を検討する。
- (3) 知財案件を迅速に処理するために、高専機構の原則「①承継は、知財が強い場合、共同出願とライセンス先が明確な場合に限ること、②共同出願の場合は出願費用は企業持ちが原則であること」を教員へメール等で周知する。
- (4) 知財部会における審議において「高専機構の原則」を意識した審議を行う。そのために高専機構知財コーディネータの活用を検討する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 知財部会の人員削減は未検討。
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準は未検討。
- (3) 知財案件を迅速に処理するために、高専機構の原則「①承継は、知財が強い場合、共同出願とライセンス先が明確な場合に限ること、②共同出願の場合は出願費用は企業持ちが原則であること」を出願検討中の教員へ周知した。
- (4) 知財部会における審議において「高専機構の原則」を意識した審議を行った。高専機構知財コーディネータは未活用。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

R1 年度改善の進言：

- (1) 知財部会の人員削減
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準整備改善の進言への対応

改善の進言への対応：

- (1) 知財部会の人員を8名から6名に削減した（教務主事，専攻科長，学生課長の削減）
- (2) 高専機構本部の知財出願方針に沿った学内の基準整備を改善した。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 年間2件以上の高専機構承継する特許出願を行う

令和2年度自己点検評価報告書

男女共同参画推進委員会：

報告者（役職・氏名） 委員長・大嶋 江利子

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	大嶋 江利子	全般
委員	村上 明	事業補助
〃	木村 寛恵	事業補助
〃	千田 芳樹	事業補助
〃	白椋 幹雄	委員会出席・意見提案
〃	高橋 寛子	委員会出席・意見提案
〃	松本 仁一	委員会出席・意見提案
〃	山口 恭一	委員会出席・意見提案
総務課	千葉 正義	事務補助、予算関連
〃	阿部 恵悦	事務補助、事業補助
〃	高圓 恵理子	事務補助、事業補助
〃	木下 智陽	事務補助、事業補助

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 中学生・保護者のための進路相談会の実施
- (2) サイエンスカフェの実施
- (3) ワークライフバランスに関する検討、実施
- (4) 男女共同参画研修会の実施
- (5) 2020年度病児・病後児及び休日保育支援実施要項の策定、周知
- (6) 女性研究者に対する支援員についての規則化、試行

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 中学生・保護者のための進路相談会は、オンラインオープンキャンパスにおいて女子中学生向け案内動画の公開およびオンライン質問コーナーとして行った。動画視聴回数は公開期間1週間（2020年8月22日～28日）で134回であり、事前申請方式の相談会（2020年8月22日）参加者10名中4名が女子中学生であり女子学生・女性教員が対応した。新型コロナウイルス感染拡大の中、初めての形式で行われたが無事に開催できたことは評価できる。

(2) サイエンスカフェもオンライン形式で行った。参加申込者に対して期間限定（2021年3月15日～31日）の動画公開を行った。またDNAストラップ製作実習は、事前に送付した材料を用いて解説動画を基に各自で行ってもらった。一関市内への集合形式と異なり、岩手県内および隣県の広い地域から73名の参加があった。

(3) ワークライフバランスに関する検討、実施に関しては、ほとんど進捗がなかった。

(4) 男女共同参画研修会も 2021 年 3 月 8 日にオンライン形式で行った。講師に豊橋技術科学大学 学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）中野裕美 氏を迎え、Teams 会議により行った。また講演会の動画は 3 月 31 日まで視聴可能とした。この結果、本校教職員 64 名、連携機関 2 名の参加があり、講演後の質疑応答も活発に行われた。

(5) 病児・病後児及び休日保育支援実施要項の策定、周知を行ったが、利用は 1 名にとどまった。これは新型コロナウイルス感染拡大に伴い、前期がオンライン授業となったことおよび学会・会議等の多くがオンラインとなったことが影響していると考えられる。

(6) 女性研究者に対する支援員についての規則化、試行は、対象を女性に限定せず、ライフイベントに係る研究者向けに、本校の専攻科生および本科 5 年生を研究サポーターとして雇用できる制度とした。2020 年度は 1 名の利用があった。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言が特になかったため、対応していない。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

特になし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 中学生・保護者のための進路相談会の実施
- (2) サイエンスカフェの実施
- (3) ワークライフバランスに関する検討、実施
- (4) 男女共同参画研修会の実施

令和2年度自己点検評価報告書

点検評価委員会：

報告者（役職・氏名） 委員長・福村卓也

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	福村 卓也 (点検評価委員会規則第4条第二号委員、 校長補佐(評価担当))	委員会業務の掌理
委員	松尾 幸二 (同一号委員、副校長(教務担当))	点検評価委員会規則第3条に 係る業務
〃	二階堂 満 (同一号委員、副校長(学生担当))	〃
〃	二本柳讓治 (同一号委員、副校長(寮務担当))	〃
〃	明石 尚之 (同一号委員、副校長(総務担当))	〃
〃	中山 淳 (同一号委員、副校長(専攻科担当))	〃
〃	鈴木 明宏 (同二号委員、校長補佐(地域連携担当))	〃
〃	戸谷 一英 (同二号委員、校長補佐(研究担当))	〃
〃	中川 裕子 (同三号委員、評価担当補佐)	委員長の補佐
〃	山口 恭一 (同第四号委員、総務課長)	点検評価委員会規則第3条に 係る業務
〃	中山美喜也 (同第五号委員、学生課長)	〃
総務課	阿部 恵悦 (企画・情報係長)	委員会事務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 令和元年度自己点検評価報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価
- (2) 機関別認証評価の評価結果（改善を要する点）に対する対応
- (3) 運営諮問会議の実施
- (4) 自己評価書の根拠資料の定常的な収集・保管方法に係る検討

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

○年度計画の実施状況および自己点検・評価

(1) 令和元年度自己点検評価報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価

評価対応部会とともに、教務委員会をはじめとする 34 の学内組織の活動内容を点検し、各組織の評価できる点と改善を要する点を運営委員会会議および教員会議にて周知した。本委員会からの改善の進言を踏まえて業務改善に繋げた組織もあり、令和 2 年度は実効的な点検活動が行えたと高く自己評価する。

(2) 機関別認証評価の評価結果（改善を要する点）に対する対応

(独)大学改革支援・学位授与機構から指定改善事項として指摘を受けた“自己点検・評価の基準・項目について、明確に設定されていない”への対応として、本委員会が“学校運営に関する自己点検・評価”の導入を提案し、運営委員会においてその方針が了承された。この方針決定に基づき点検評価規則の改正も行った。次年度(2021 年度)に本校独自の評価項目からなる“学校運営に関する自己点検評価表”を決定し、2022 年度にそれに基づく自己点検・評価を実施する方向で作業を進める。

定期試験の出題内容や成績評価に関する指摘については、教務主事に対してメール等で注意喚起を行うよう依頼するとともに、校長補佐(評価担当)も教員会議で改善を要する事項について言及を行った。

(3) 運営諮問会議の実施

新型コロナウイルスの感染防止のため、令和 2 年度の運営諮問会議を通常の集合形式ではなく書面審議形式で実施した。令和 4 年度の本校専攻科の改組を見据えて、令和 2 年度の諮問テーマは“社会情勢の変化に対応した専攻科再編について”とし、各委員より忌憚のないご意見を頂いた。書面での意見交換の結果を踏まえ、令和 3 年 2 月 4 日付けで運営諮問会議より学校運営に関する提言の通知を受けた(第 18 回運営委員会会議および第 14 回教員会議にて校長補佐(評価担当)が提言内容を報告)。

(4) 自己評価書の根拠資料の定常的な収集・保管方法に係る検討

認証評価の自己評価書に係る根拠資料の定常的な収集・保管方法について今年度は具体的な検討を行わなかった。しかし、上述の“学校運営に関する自己点検・評価”では、認証評価に準ずる評価項目も数多く設ける予定であり、実質的に認証評価関係資料の定常的な収集に繋がると考える。

○活動全体の自己点検・評価

今年度(2020 年度)まで点検評価委員会委員が学内組織の自己点検評価報告書すべてに目をとおり学内組織の活動の点検を行ってきたが、業務の多い点検評価委員会規則第一号委員(副校長)には負荷が大きい状況であった。このため、次年度(2021 年度)より本委員会委員ごとに点検する学内組織を振り分け(委員あたり 5、6 の学内組織の点検)、点検活動の効率化を図る。

2020 年度の会議は新型コロナウイルス対策の観点から集合形式では一度も行わず、Microsoft Teams を基本とした遠隔形式での会議を実施した。本形式では印刷物の配付もなく、会議中の資料も PC 等画面上で同時に出席者が見えることができるメリットがあり、2021 年度の会議開催も遠隔形式を基本とする。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

(1) 授業アンケートで指摘された改善を要する点について、PDCA を確実に組織として機能させることを要望する。

令和 2 年度前期授業アンケートの結果に対するコメントの提出者数が少なく、本件について実効的な改善活動が行えていない。アンケート実施時期を中間試験にすることの意見もあり、令和 3 年度の年度計画として教務委員会および評価対応部会とともに本件への実効的な対応を検討する。

(2) 自己点検評価報告書を提出しない学内組織があり、確実に提出させるための実効的な方策の検討を進言する。

令和元年度自己点検評価報告書を提出しなかった組織が 2 つあり、この点が問題として指摘されている。この状況を改善するために、令和 2 年度自己点検評価報告書からは学内組織の長だけでなくその組織構成委員にも企画・情報係より依頼通知を発出し、組織的な対応により確実に自己点検評価報告書が提出されるように改善策を講じた。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

前述のとおり、新型コロナウイルス感染防止を踏まえ、集合形式ではなく Microsoft Teams を用いた遠隔形式を基本として計 8 回の会議を開催した。2021 年度も遠隔会議を基本として会議運営を実施する。また、自己点検評価報告書の様式を前年度の様式から簡素化し、報告書作成の負担軽減を図った。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 令和 2 年度自己点検評価報告書に基づく学内組織の活動の点検および評価
- (2) “学校運営に関する自己点検・評価” 導入のための具体的な作業
- (3) 機関別認証評価の評価結果（改善を要する点）および運営諮問会議からの提言への対応
- (4) 運営諮問会議の実施
- (5) 学外アンケートの実施
- (6) 授業アンケート関係の活動の改善

令和2年度自己点検評価報告書

点検評価委員会評価対応部会：

報告者（役職・氏名） 部会長・福村卓也

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
部会長	福村 卓也 (点検評価委員会評価対応部会規則第3条第一号委員、校長補佐(評価担当))	部会業務の掌理
副部会長	中川 裕子 (同第二号委員、評価担当補佐)	部会長の補佐、授業アンケートの実施(主担当者)
委員	村上 明 (同第三号委員、生産工学専攻長)	点検評価委員会評価対応部会規則第2条に係る業務
〃	岡本 健 (同第三号委員、物質化学工学専攻長)	〃
〃	佐藤 一樹 (同第四号委員、教務主事補)	〃
〃	井上 翔 (同第五号委員、学生主事補)	〃
〃	下川 理英 (同第七号委員、総務担当補佐)	〃
〃	中嶋 剛 (同第七号委員、総務担当補佐)	〃
〃	佐藤 和久 (同第八号委員、副地域共同テクノセンター長)	〃
総務課	阿部 恵悦 (企画・情報係長)	部会事務
学生課	熊谷 健一 (教務係)	各種アンケートのとりまとめ

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 授業アンケートの実施
- (2) 自己点検・自己評価に関するアンケート調査の実施
- (3) 学生自身による教育目標の達成度評価及び教育内容に関する学生の意識調査

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

○年度計画の実施状況および自己点検・評価

(1) 授業アンケートの実施

前期授業アンケートを9月29日から10月21日にかけて、後期授業アンケートを2月4日から2月19日にかけてそれぞれ実施した。本件は副部会長が主担当となって Moodle にアンケート用のコースを開設し、設定内容の確認は評価対応部会委員が行った。令和2年度前期は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から遠隔形式で授業が行われたことから、従来のアンケートの質問項目ではなく遠隔授業に対応した質問項目とした。学生のアンケート回答率は前期が66.3%、後期が65.5%といずれも70%を割っており(参考:2017年度は前期74.9%、後期75.6%)、また授業アンケート結果に対する教員のコメントの数も少なかったことから、令和3年度以降はこれらの改善に向けた方策を検討する。

(2) 自己点検・自己評価に関するアンケート調査の実施

前期末および学年末の時期に、紙を用いて“科目達成度の点検”を実施した。2020年度の学内調査の多くは Microsoft Forms (以下 Forms) を用いて行われたが、本アンケートは2020年度も用紙配布により調査を行った。2021年度以降に本アンケートの様式の電子化を検討する。

(3) 学生自身による教育目標の達成度評価及び教育内容に関する学生の意識調査

年度末に Forms を用いて本科生全学生を対象として教育目標の達成度の点検を実施した。紙媒体でアンケートを実施した前年度と比較して、回答者数が半分程度に激減した。集計作業の効率化は達成したが、次年度は回答者数を多くするための方策の検討が必要である。

○活動全体の自己点検・評価

本部会の会議を Microsoft Teams (以下 Teams) を用いた遠隔形式で開催し、会議の効率化(紙資料の配布がない、資料の PC 画面上での共有化)を実現した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

令和元年度自己点検評価報告書を基礎調査資料として、学内組織の活動の点検を行った。委員ごとに点検する組織を振り分け、効率的で詳細な点検活動が行えたとして自己評価する。

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

前述のとおり、新型コロナウイルスの影響もあり、令和2年度は Teams を用いて会議を開催した。2021年度も Teams を用いた遠隔形式を基本として会議を開催する。また、教育目標の達成度の点検も2020年度より Forms で実施し、集計作業を効率化した。

2.5 来年度の年度計画

- ・令和2年度自己点検評価報告書の点検
- ・学校運営に関する自己点検評価表の作成
- ・授業アンケートの実施
- ・科目達成度の点検
- ・教育目標の達成度の点検

令和 2年度 自己点検評価報告書

図書館専門部会：

報告者（役職・氏名） 図書館長・千葉 圭

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	千葉 圭	全体の統括
委員	若嶋振一郎	機械・知能系の代表
委員	佐藤 和輝	電気・電子系の代表
委員	豊田 計時	情報・ソフトウェア系の代表
委員	戸谷 一英	化学・バイオ系の代表
図書係長	大山 稔哉	会務全般の企画
主任	菊池真理子	図書係全般の実務
学生課長	中山美喜也	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 改修後の移転の実施
- (2) 学科各系推薦図書を選定と購入
- (3) 研究紀要の編纂
- (4) 図書館だよりの発行

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 改修後の移転の実施（予定より大幅に遅れたが、100%実施できた）
- (2) 学科推薦図書を選定と購入（100%実施できた）
- (3) 研究紀要の編纂（100%実施できた）
- (4) 図書館だよりの発行（100%実施できた）

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言はなかったが、語句の訂正が求められ、対応済みである。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

第4回の図書館専門部会から、ペーパーレスで会議を実施した。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 新入生に対する図書館ガイダンスの実施
- (2) 学科各系推薦図書を選定と購入
- (3) ブックハンティングの実施
- (4) 読書感想文コンクールの実施
- (5) 研究紀要の編纂
- (6) 図書館だよりの発行

今年度は改修工事のため、ブックハンティングを実施できなかったが、来年度は再開する。

令和2年度自己点検評価報告書

総合情報センター：

報告者（役職・氏名） センター長・小保方幸次

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
センター長	小保方 幸次	
副センター長	宇梶 郁	センター長補佐
センター員	横田 礼	情報基盤部門長
〃	菅野 有沙	情報化推進部門長
〃	佐藤 一成	実習室整備
学生課		会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 仮想システム移行
- (2) 教育システム移行
- (3) GW 移行

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

仮想システムおよび教育システムの移行は計画通り行われ、安定稼働している。遠隔授業等の対応もある中、できる限りの対応は行えたものと自己評価する。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

情報センター内だけでは対応が困難な事案については適宜指摘するよう心掛けた。

2.5 来年度の年度計画

必要な業務の仕分けを行い、業務削減に努める

令和2年度自己点検評価報告書

情報セキュリティ推進室：

報告者（役職・氏名） 室長・千田 栄幸

1 構成員および主な担当業務(一覧)

情報セキュリティ推進室			
	氏名	所属・職名	備考
室長	千田 栄幸	情報・ソフトウェア系 情報セキュリティ推進責任者	第4条第一号
室員	高橋 説夫	総務課長補佐（総務担当） 情報セキュリティ推進副責任者	第4条第二号
室員	小保方 幸次	情報・ソフトウェア系 総合情報センター長	第4条第三号
室員	宇梶 郁	情報・ソフトウェア系	第4条第四号
室員	横田 礼	技術室 総合情報センター情報システム 管理部門長	第4条第五号
陪席	阿部 恵悦	総務課企画・情報係長	第13条（事務）

情報セキュリティインシデント対応チーム			
	氏名	所属・職名	備考
ISIRT責任者	千田 栄幸	室長	第12条第一号
ISIRT員	小保方 幸次	情報・ソフトウェア系 総合情報センター長	第12条第二号
ISIRT員	横田 礼	技術室 総合情報センター情報システム 管理部門長	第12条第三号
ISIRT員	阿部 恵悦	総務課企画・情報係長	第12条第四号
ISIRT員	高橋 説夫	総務課長補佐（総務担当） 情報セキュリティ推進副責任者	第12条第五号
ISIRT員		インシデントが発生した当該 系、課、室の教職員	第12条第五号

情報セキュリティ推進委員会			
	氏名	所属・職名	備考
委員長	千田 栄幸	室長	第8条第一号
委員	高橋 説夫	室員 情報セキュリティ推進副責任者	第8条第二号
委員	明石 尚之	副校長（総務担当）	第8条第三号
委員	小保方 幸次	室員	第8条第四号
委員	宇梶 郁	室員	第8条第四号
委員	横田 礼	室員	第8条第四号
委員	若嶋 振一郎	機械・知能系長	第8条第五号
委員	藤田 実樹	電気・電子系長	第8条第五号
委員	※千田 栄幸	情報・ソフトウェア系長	第8条第五号
委員	照井 教文	化学・バイオ系長	第8条第五号
委員	津田 大樹	総合科学人文社会領域長	第8条第五号
委員	白井 仁人	総合科学自然科学領域長	第8条第五号
委員	佐藤 亮二	総務課長補佐（財務担当）	第8条第六号
委員	※高橋 説夫	総務課長補佐（総務担当）	第8条第六号
委員	大山 稔哉	学生課長補佐	第8条第六号
委員	小岩 俊彦	技術長	第8条第七号
陪席	阿部 恵悦	総務課企画・情報係長	第13条（事務）
	※は兼任		

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- 1) 情報セキュリティ講習会[全教職員対象]
- 2) 情報セキュリティに係る誓約書・宣誓書[全学生、全教職員対象]
- 3) 情報セキュリティ教育（eラーニング）[全新入学生、全教職員対象]
- 4) 標的型攻撃メール訓練[全教職員対象]
- 5) 情報セキュリティトップセミナー[情報セキュリティ管理者対象]
- 6) 情報セキュリティに係る各種情報提供（随時）
- 7) 情報セキュリティインシデント対応

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- 1) 4月3日に全教職員対象として情報セキュリティ講習会を実施した。
- 2) 5月末日を期限として全教職員を対象とした誓約書およびチェックリストの提出を依頼し回収を行った。また、12月を目途に全学生を対象とした宣誓書およびチェックリストの提出を依頼し回収を行った。

- 3) 5月末日を期限として全教職員を対象とした情報セキュリティ教育（eラーニング）を実施した。また、12月を目途に全新入生を対象とした情報セキュリティ教育（eラーニング）を実施した。※在校生は昨年度実施済
- 4) 1月および2月に高専機構情報セキュリティ部門による全教職員を対象とした標的型攻撃メール対応訓練を実施した。
- 5) 11月および2月に高専機構情報セキュリティ部門による情報セキュリティ管理者を対象とした情報セキュリティトップセミナーを実施した。
- 6) 毎月、運営委員会および教員会議において、情報セキュリティに係る各種情報提供および啓発を行った。
- 7) 随時、情報セキュリティに係るインシデントに対応し、また相談に応じた。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

※該当なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

全教職員宛のメールによる注意喚起に加えて、Teamsのチーム「【一関高専】ポータル>610 情報セキュリティ推進室関係」において注意喚起を行った。

2.5 来年度の年度計画

- 1) 情報セキュリティ講習会[全教職員対象]
- 2) 情報セキュリティに係る誓約書・宣誓書[全学生、全教職員対象]
- 3) 情報セキュリティ教育（eラーニング）[全新入学生、全教職員対象]
- 4) 標的型攻撃メール訓練[全教職員対象]
- 5) 情報セキュリティトップセミナー[情報セキュリティ管理者対象]
- 6) 情報セキュリティに係る各種情報提供（随時）
- 7) 情報セキュリティインシデント対応
- 8) 高専機構情報セキュリティ監査対応

令和2年度自己点検評価報告書

国際交流委員会：

報告者（役職・氏名） 委員長・村上 明

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
委員長	村上 明	全体のとりまとめ フランス技術短期大学への派遣と受入 タイ パトゥムワン工科大学への派遣と受入 留学生の指導 危機管理・対応 トビタテ！留学 JAPAN 申請の指導
副委員長	岡本 健	シンガポール研修のとりまとめ 海外に渡航する学生への安全教育 留学生の指導 危機管理・対応 トビタテ！留学 JAPAN 申請の指導
副委員長	下川 理英	留学生の指導 国際交流サークルの指導 オンライン英語学習 フランス ECAM-EPMI への派遣と受入 トビタテ！留学 JAPAN 地域コーディネーター トビタテ！留学 JAPAN 申請の指導
寮務主事補	谷川 享行	寮での留学生の指導
留学生指導教員		チューターの指導
教務主事補	木村 寛恵	オンライン英語学習
委員	千葉 圭	留学生の指導 危機管理・対応
総務課長	山口 恭一	会務
学生課長	中山 美喜也	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

国際交流に関する諸行事および活動に対して、特に以下の項目に重点を置いて取り組む。

- (1) 国際交流委員会、クラス担任、教務委員会、寮務委員会、事務局、チューターとの連携により、留学生の生活や学習の状況を的確に把握し、必要に応じて支援を行う。
- (2) 海外におけるテロなどの事件や、コロナウイルスなどの問題に伴う、海外派遣や海外協定校からの受入れにおける本校学生と短期留学生のリスクを海外協定校の国際交流担当者と連携し

て慎重に検討する。リスクがあると判断される場合は、それを回避するための方策を考え、場合によっては、派遣や受入れの中止などの決定を適切に行う。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

(1) 国際交流委員会、クラス担任、教務委員会、寮務委員会、事務部、チューターとの連携により、留学生の生活や学習の状況を的確に把握し、必要に応じて支援を行うことができた。それにより、6名の留学生全員が問題なく学習に取り組み、生活を送ることができた。

(2) 国内外におけるコロナウイルスの感染状況と入国規制に関する状況を踏まえて、本校と海外協定校の学生のリスクを協定校の国際交流担当者と連携して慎重に検討し、すべての派遣・受入の中止を決定した。年度末における国内外の状況をみても、中止を決定したことは、適切な判断であったと考える。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

改善の進言は、特になかった。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

海外協定校派遣への応募を検討している学生と個別に面談等を行った。その中で、コロナウイルスの国内外における感染状況や、それに伴う入国規制、感染した場合のリスクなどを丁寧に説明した。

2.5 来年度の年度計画

来年度以降もコロナウイルスの影響が続くと予想されることから、引き続き、以下の項目に重点を置いて取り組む。

(1) 国際交流委員会、クラス担任、教務委員会、寮務委員会、事務部、チューターと連携し、入国規制により日本に入国できない留学生や、母国に帰国できない留学生のケアを行うなど、留学生が安心して生活や学習が行えるように支援を行う。

(2) 国内外におけるコロナウイルスの感染状況や、入国規制などを的確に把握して、海外協定校の国際交流担当者と連携して、海外協定校への派遣や受入れにおける本校と協定校の学生のリスクを慎重に検討し、実施の可否を判断する。

令和2年度自己点検評価報告書

サイバーセキュリティ人材育成事業推進委員会：

報告者（役職・氏名） 委員長・千田 栄幸

1 構成員および主な担当業務(一覧)

氏名	所属・職名	備考
若嶋振一郎	機械・知能系	第3条第一号
谷林 慧	電気・電子系	第3条第一号
佐藤 智治	情報・ソフトウェア系	第3条第一号
本間 俊将	化学・バイオ系	第3条第一号
外山 直樹	総合科学 自然科学領域	第3条第一号
小保方 幸次	総合情報センター長	第3条第二号
◎千田 栄幸	委員長 情報セキュリティ推進室長	第3条第三号
小池 敦	教務委員会 ICT活用教育部 会長	第3条第四号
山口 恭一	総務課長	第3条第五号
宇梶 郁	情報・ソフトウェア系	第3条第六号
横田 礼	技術室 電気・情報班	第3条第六号
※千葉 正義	事務担当：総務課	総務課課長補佐（企画・産学連携担当）
※及川 由紀子	事務担当：総務課	本事業事務補佐員

☞令和3年1月より特命教員として、和山正人先生が着任し、本事業に参画した。

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) K-SEC 開発教材の教育実践およびその展開
非情報系学科における情報セキュリティ教育の強化
- (2) SOC・IoT 拠点整備に係る教育実践
- (3) 情報モラル教材改修業務
- (4) KOSEN セキュリティコンテスト 2020 の実施

全国国公立高専の学生を対象とした CTF 形式の競技

- (5) 第一ブロック学生対象講座の実施
- (6) 外部機関との連携活動の実施
警察庁（東北管区警察局）出前授業、enPiT（東北大学：Basic SecCap）
- (7) その他、(1)～(6)の実践に係る各種活動

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) K-SEC 開発教材を活用した教育の実践を行った。特に、昨年度 IoT 拠点整備として各系・領域に導入した機器や装置を活用したセキュリティ教育が全学科（系・領域）において実践された。
- (2) SOC 演習については、COVID-19 感染拡大等の影響により環境整備に遅れが生じており、今年度中の実施には至らなかった。また、環境維持のため必要な物品を購入し支援した。
- (3) 情報モラル教材改修業務については、当初製作から 4 年が経過した「情報モラル教材」を現状に即した教材に改修し、従来の授業外での活用を目的とした教材から授業内で活用できる教材へと改修を行った。
- (4) KOSEN セキュリティコンテスト 2020 については、下記の内容にて実施した。
日 時：令和 2 年 11 月 14 日（土）9:30～16:36
実施形態：オンライン開催
競技形式：CTF 形式
対 象：全国国公立高等専門学校生
参加チーム等：24 高専より 51 チーム、148 名参加
- (5) 第一ブロック学生向け講座については、今年度は「サイバーセキュリティ演習」（12 月 19 日（土）：オンライン開催）1 講座の実施となった。
- (6) 外部機関との連携活動については、下記のとおり実施した。
 - ・警察庁（東北管区警察局）出前授業：令和 3 年 1 月 25 日実施
 - ・enPiT：セキュリティ総論 A 受講者 6 名
クラウドセキュリティ演習 1 名
ネットワークセキュリティ基礎演習 2 名
制御システムセキュリティ演習 2 名
Cyber OPS 演習 1 名
サイバー攻撃演習 1 名
ネットワークセキュリティ実践 1 名
→Basic SecCap 7 修了認定（予定）者：1 名、BasicSecCap 10 修了認定（予定）者：1 名
→JNSA 表彰「JNSA 学生賞」受賞 1 名（前年度 Basic SecCap 10 修了認定者）
- (7) その他、(1)～(6)の実践に係り、常にコミュニティツール（Teams）を活用し、情報交換を行うとともに、概ね隔週で実施される K-SEC 拠点校会議の議論の内容も踏まえて、教育推進活動を遂行した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

- 改善の進言
 - ▶ サイバーセキュリティ人材の育成という観点から、学生のサイバーセキュリティ能力の向上に関する指標に基づき PDCA を回す取り組みの導入を要望する。
- 対応
 - ▶ 学生のスキル向上の検証については、K-SEC の各種イベントで事前・事後にスキルチェックを実施している。また、今年度は情報処理技術者試験を利用した、アセスメントを実施し、分析・評価を行っている。

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

KOSEN セキュコンのリモート開催（参加者はオンライン）や、サイバーセキュリティ演習のフルリモート開催（講師も参加者もオンライン）など、コロナ禍の中で ICT を十分に活用し、活動を行った。

2.5 来年度の年度計画

- (1) K-SEC 開発教材の教育実践およびその展開
非情報系学科における情報セキュリティ教育の強化とその実践
- (2) SOC・IoT 拠点整備に係る教育実践
- (3) 第一ブロック学生・教職員対象講座の実施
- (4) K-SEC 開発教材のアップデート
- (5) 外部機関との連携活動の実践
警察庁（東北管区警察局）出前授業、enPiT（東北大学：Basic SecCap）
- (6) その他、(1)～(5)の実践に係る各種活動
※K-SEC キックオフ会議（2021年5月を予定）を踏まえて、微修正の可能性あり。

令和2年度自己点検評価報告書

委員会・室名等：地域創成人材育成事業推進委員会

報告者（役職・氏名） 地域創成人材育成事業推進委員会委員長・鈴木明宏

1 構成員および主な担当業務（一覧）

役職等	氏名	担当業務
委員長	鈴木 明宏	委員会業務の掌握
委員（副センター長・部門長）	原 圭祐	人材育成事業部門
委員（副部門長）	川上 雅士	人材育成事業部門
委員	秋田 敏弘	—
委員	佐藤 昭規	産学官連携コーディネータ
委員	菊地 重人	特命教授（専任）
委員	佐藤 正由	特命教授（専任）
事務局	加藤 宏和	教育支援員（専任）
事務局	千葉 由美子	会務（専任）
事務局	千葉 正義	総務課長補佐

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 地域創生人材育成事業推進委員会を開催する（4月から隔月開催を目処にする）。構成委員は、テクノセンター委員会所属教員5名＋総務課長補佐1名、EV人材育成事務局4名（厚生労働省事業雇用者）とする。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（以下3～7）を継続する（EV人材育成コース。H30年度から3年、総委託費109,461千円）。
- (3) 企業技術者・高専生・求職者向けに「EVアカデミー」を開催する（令和2年6月～8月、6時間×計14回）。
- (4) 連携する工業高校や産業技術短大向けに「EVミニアカデミー」を実施する（令和2年8月～12月、6時間×2日間×実施機関数）。実施機関は、産業技術短期大学校、花北青雲高校、黒沢尻工業高校。
- (5) 高度企業技術者等向けに「R&Dアカデミー」を開催する（令和2年6月～令和3年3月、令和元年9月～令和2年3月、週2時間以上×実施機関数）。企業とメンター教員と学生の組み合わせで、5～6課題程度を採択する。1課題あたり100万円を目処に予算措置する。
- (6) 上記3～5の成果報告会を年1回以上実施する。
- (7) 厚生労働省への申請書に定められた重要評価指標KPI（アウトプットおよびアウトカム指標）を目標とする。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 地域創生人材育成事業推進委員会を開催した（4月24日、6月18日、10月14日、12月15日、1月19日開催）。構成委員は、テクノセンター委員会所属教員5名＋総務課長補佐1名＋専任特命教授2名（厚生労働省事業雇用者）、EV人材育成事務局2名（厚生労働省事業雇用者）とした。
- (2) 岩手県と協力して厚生労働省の地域創生人材育成事業（以下3～7）を継続した（EV人材育成コース。H30年から3年（初年度は契約の関係で8月開始）、総委託費109,461千円。平成30年度予算30,876千円、実績24,968千円）。
- (3) 企業技術者・高専生・求職者向けに「EVアカデミー」を開催した（令和2年9月～12月web配信、7講座、2/6,7対面講座）。
- (4) 連携する工業高校や産業技術短大向けに「EVミニアカデミー」を実施した（令和2年7月～R3,1月、6時間×2日間×実施機関数）。実施機関は、千厩高等学校、産業技術短期大学校、花北青雲高校、黒沢尻工業高校、二戸高等技術専門学校。
- (5) 高度企業技術者等向けに「R&Dアカデミー」を開催した（令和2年6月～令和3年2月、令和2年8月～令和3年2月、週2時間以上×実施機関数）。企業とメンター教員と学生の組み合わせで、5課題程度を採択した。1課題あたり100万円を上限に予算措置した。
- (6) 上記3～5の成果報告会を、令和3年3月3日（最終報告会）一関高専でweb及び対面で実施した。指導講演として岩手県商工労働部 ものづくり自動車産業振興室 室長 瀬川 浩昭氏「岩手県のものづくり産業の現状と展望」～加速する電動化の動きを踏まえて～を実施した。
- (7) 厚生労働省への申請書に定められた重要評価指標KPI（アウトプットおよびアウトカム指標）を目標とした。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

R1年度改善の進言：

- ・ なし

改善の進言への対応：

- ・ なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

地域創生人材育成事業推進委員会は、厚生労働省の地域創生人材育成事業を推進する委員会のため、地域創生人材育成事業が今年度で終了と同時に推進委員会は解散する。したがって来年度の計画はない。

令和 2 年度自己点検評価報告書

教学 IR 室：

報告者（役職・氏名） 室長・明石 尚之

1 構成員および主な担当業務(一覧)

役職等	氏名	担当業務
室長	明石 尚之 教員	
室員	小保方幸次 教員	
〃	伊藤 瞳 教務係長	会務
〃	及川 尚 学生支援係長	

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 入学動機アンケートの分析
- (2) 第 1 学年学年末成績評価と入学者選抜検査データとの相関の分析
- (3) 入学者選抜検査データの分析

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 入学動機アンケートの分析
予定通り実施した。
- (2) 第 1 学年学年末成績評価と入学者選抜検査データとの相関の分析
予定通り実施した。分析の結果、アドミッションポリシーに沿った学生が入学していると判断した。
- (3) 入学者選抜検査データの分析
予定通り実施した。志願倍率については、中学 3 年生人口の減少に伴って減少する傾向がみられた。

分析については予定通り実施したが、一部の分析結果については、入学試験委員会等で報告することができなかった。次年度に報告する機会を設ける予定である。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

なし

2.4 前年度からの改善（変更）項目（前述の改善の進言への対応以外）

なし

2.5 来年度の年度計画

- (1) 入学動機アンケートの分析

- (2) 第1学年学年末成績評価と入学者選抜検査データとの相関の分析
- (3) 入学者選抜検査データの分析

令和2年度自己点検評価報告書

研究担当

報告者（役職・氏名） 校長補佐（研究担当）・戸谷一英

1 構成員および主な担当業務（一覧）

役職等	氏名	担当業務
校長補佐（研究担当）	戸谷 一英	研究推進業務の掌握
研究担当補佐	滝渡 幸治	科研費担当、研究推進
総務課	千葉 正義	会務

2 自己点検・自己評価

2.1 年度計画

- (1) 科研費獲得のための勉強会を開催し、代表申請率 75%以上、基盤研究(B)への申請件数 2 件、新規採択件数 5 件（最低限現状維持：4 件）、を目標とする。
- (2) KRA の支援や高専研究ネットワークを活用し、産業界、地方公共団体および地域企業との JST の「SOLVE for SDGs」や「共創の場形成支援プログラム」への申請の参画、文科省創発的研究支援事業、NEDO 若手研究者発掘支援事業へ申請する。
- (3) 企業との共同研究を推進する。
- (4) JST などの受託研究の獲得を推進する。
- (5) 財団系公募への申請を推進する。
- (6) ヘルステックイノベーション・ハブ(岩手県工業技術センター内)との連携事業を推進する。
- (7) Researchmap(<https://researchmap.jp/search/>)を用いて、研究者情報を発信する。
- (8) 公益財団法人岩手県南技術研究センターと連携協定を締結する。

2.2 年度計画の実施状況および委員会等活動全体の点検・評価内容

- (1) 科研費獲得のための勉強会をオンラインで開催した。代表申請率 81%、基盤研究(B)への申請件数は 2 件、新規採択件数 3 件（1 名転出のため）であった。
- (2) 地域大学や地域スタートアップ企業群、地域公設試、自治体と共に、JST の「SOLVE for SDGs」や「共創の場形成支援プログラム」への申請に参画した。文科省創発的研究支援事業へ 1 件、NEDO 若手研究者発掘支援事業へ 2 件申請した。
- (3) 企業との共同研究を推進した。
- (4) JST 産学共同育成型に 1 件×2 回、トライアウトに 7 件申請し、トライアウト 1 件採択（4 年連続）された。
- (5) 財団系公募に 12 件申請し 6 件採択された。

- (6) ヘルステックイノベーション・ハブ(岩手県工業技術センター内)との連携事業を推進した。
- (7) Researchmap(<https://researchmap.jp/search/>)を用いて、研究者情報を発信した。
- (8) 公益財団法人岩手県南技術研究センターと連携協定を締結した。

2.3 点検評価委員会からの改善の進言への対応

R2 年度改善の進言：

- ・ 今年度から作成が始まったのでなし

改善の進言への対応：

- ・ 今年度から作成が始まったのでなし

2.4 前年度からの改善(変更)項目(前述の改善の進言への対応以外)

JST 共創の場形成支援プログラムに参画することで、ヘルステックイノベーション・ハブを拠点とする TOLIC や、地域大学、自治体との連携を深めることができた。これは、これまで一関高専が出来てこなかったことで特記事項に相当する。

2.5 来年度の年度計画

- (1) 科研費獲得のための勉強会を開催し、代表申請率 80%以上、基盤研究(B)への申請件数 2 件、新規採択件数 4 件、を目標とする。
- (2) KRA の支援や高専研究ネットワークを活用し、地域大学、自治体、地方公共団体、および地域企業群と JST の「共創の場形成支援プログラム」申請への参画する。
- (3) 文科省創発的研究支援事業、NEDO 若手研究者発掘支援事業へ申請する。
- (4) JST などの受託研究の獲得を推進する。
- (5) 地域ファンドへの申請を推進する(いわて戦略研究開発推進事業、リエゾン-I 研究開発育成事業、など)。
- (6) 地域企業との共同研究を推進する。
- (7) ヘルステックイノベーション・ハブ(岩手県工業技術センター内)との連携事業を推進する。
- (8) 「研究力強化ワーキンググループ」を立ち上げ、研究活動を推進する。
- (9) Researchmap(<https://researchmap.jp/search/>)を用いて研究者情報を発信する。
- (10) 公益財団法人岩手県南技術研究センター、一関市、地域企業との連携をサポートする。